

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

1

2

3

4

5

6

Green

7

8

Yellow

9

10

Red

11

Magenta

12

13

White

14

15

16

17

18

19

A

1

2

3

4

5

6

M

7

8

9

10

11

12

B

13

14

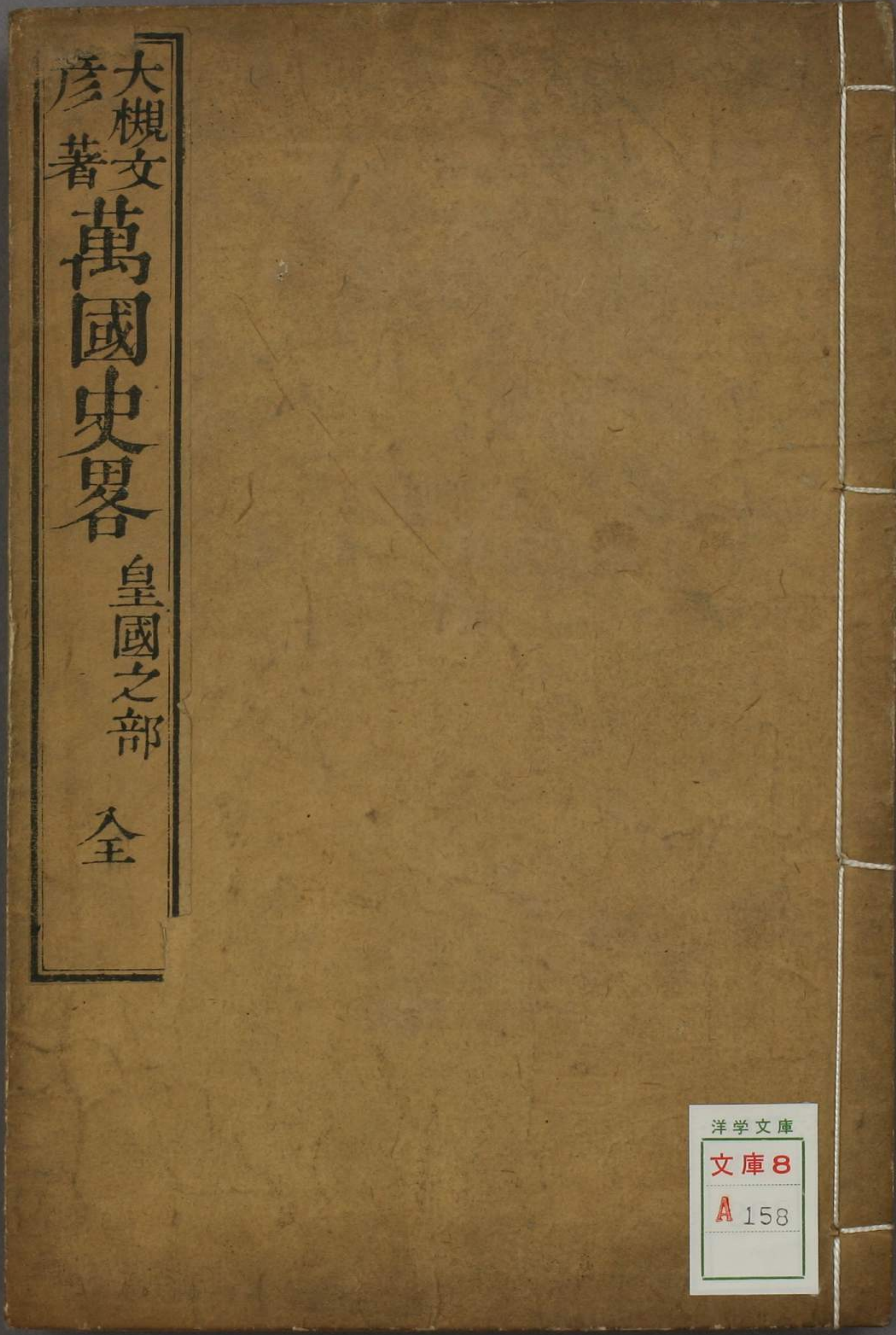
15

16

17

18

19



大槻文彦著 萬國史畧 皇國之部 全

洋学文庫
文庫8
A 158



大槻文彦著 皇國之部

萬國史畧卷三

明治八年十二月 錦森堂藏版

萬國史略

緒言



大槻文庫

余曩キニ、東京師範學校ニ在リテ、萬國史略二卷
ヲ編ス、後、文部省、之ヲ刊行ス、今茲、書肆錦森堂主
人、准ヲ得テ、之ヲ翻刻セリ、然ルニ、其書、萬國ト標
スト、雖凡、特ニ、日本ノ部ヲ缺ケリ、堂主、依テ來テ、
其缺ヲ補ハシ、一ヲ乞フ、是ニ於テ、書體支例、一ニ
前書ニ倣ヒ、此一冊ヲ編シ、以テ前書ニ附ス、然レ
凡、倉卒ノ編、誤謬モ亦或ハ多カラシ、看官、隨テ訂

萬國史畧緒言



正ヲ加フルアラバ、幸甚シ、

明治八年十一月

大槻文彦

記

萬國史略

大槻文彦 編

日本

我大日本國開闢ノ年歴ハ、今ヨリ幾千年ノ前ニ
在リシヤ、今詳ニ之ヲ知ルヲ能ハズ、其年數ヲ記
セルモノハ、凡ソ二千五百餘年前ヲ限リトス、然
レモ、今史ノ傳フル所ニ據テ、其大略ヲ記ス、曰、天
地開闢ノ初、^天當テ、^生最第一^レ生^レ神ヲ、天、御中
主ト云ヒ、^イ之ヲ造化ノ元始トス、次ニ高皇產靈神

皇產靈ト去ヘル三神生ジテ凡ソ宇宙ノ萬物悉

此二神生成スル所ト後伊弉諾伊弉册ノ

男女二神生ジテ夫婦ト爲リ大八島國日本ノ古名

諸島ヲ成生シ最後ニ天照大神及ビ素盞鳥尊ヲ

生ム太神實ニ明德アリテ六合ニ照臨ス素盞鳥

尊後出雲ニ居リ其後孫大己貴命キ至リ少彦名

命カル者トカヲ戮セテ此國ヲ經營ス天照大神

忍穗耳尊ヲ生ミ尊又瓊々杵尊ヲ生ム是ヨリ先

キ大神諸神ニ命ジテ國內ヲ平定セシメシガ終

ニ瓊々杵尊ニ劍鏡璽ノ三器ヲ授ケ之ヲ天璽ト

シ命ジテ子孫永ク此豊葦原之瑞穗國亦日本古名

タキシム是ニ於テ瓊々杵尊初メテ日向ニ居ヲ

定メ其子彦火々出見尊孫鵜草葺不合尊三世相

繼テ日向ニ居リ以テ西邊ノ國ヲ治メタリト云

フ蓋シ當時風化ノ通ズル所ハ全國中就キ僅ニ

西部ノ一半ノミ然レ此時代ハ歲月悠遠ニシ

テ事歴ノ詳ナルヲ得テ知ルヤカラズ總ベテ之

ヲ神代ト稱セリ

人皇第一世神武天皇ハ鵜草葺不合尊ノ子ナリ

明達ニシテ意豁如タリ帝大ニ全國ヲ開定セン

トシ、年四十五、師ヲ率非テ、日向ヲ發シ、吉備ニ到
リ、居ル一三年ノ後、終ニ舟師ヲ進メ、浪速河内ヲ



神武天皇

歴テ、將ニ大和ニ入ラン
トス、此時長髓彦オトル者、
饒速日命ヲ奉リ、帝ノ師
ニ抗セシガ、數戰ノ後、帝
終ニ伐テ之ヲ亡シ、併セ

諸寇ヲ滅セリ、是ニ於テ、中州悉ク平ギ、帝乃チ
都ヲ大和ノ橿原ニ定メ、遂ニ天皇ノ位ニ即ク、是
ヲ日本天皇ノ第一トス、是レ今茲ヨリ、二千五百

此處本島
東比之島
洲云々

三十五年前ノ事ニシテ、此歳ヲ、日本ノ紀元元年
トス、帝、神聖ノ餘烈ヲ承ギ、一征シテ國中ヲ戡定
シ、永ク千萬年ノ大基ヲ開キ、今ニ至テ其偉業ヲ
景仰ス、紀元七十六年、帝崩ズ、神武ヨリ後、綏靖、安
寧、懿德、孝昭、孝安、孝靈、孝元、開化ニ至ル、八世、凡ソ
五百年ノ間、國內無爲ニシテ治リ、史上、東ニ一事蹟
ノ傳フベキモノ無シ、

紀元五百六十四年、崇神帝位ニ即ク、聰明ニシテ
雄略アリ、心ヲ民事ニ用井、又將軍ヲ遣ハシ、四方
ヲ征シ、威德大ニ行ハル、此時任那國、朝鮮初メテ來

朝是ル世孫日本外國ニ通スルノ始ナリ、垂仁帝時三津比海景行帝継キ至リ、親シク筑紫熊襲ヲ征シ、又武内宿禰北ヲ遣テ、東北ノ諸國ヲ巡ラシム、皇子日本武尊、雄偉ニシテ、武カアリ、熊襲北ヲ再ビ叛クヲ伐チ、又東征シテ、大ニ疆土ヲ開キ、陸奥ニ至ル、是レ紀元七百七十日年ナリ、成務帝大ニ國中ノ境界ヲ定メ、仲哀帝位ヲ繼グニ及ビ、熊襲ヲ親征シテ、遂ニ筑紫ニ崩ズ、神功皇后、因テ武内ト謀リ、紀元八百六十年、舟師ヲ率井、遂ニ攻テ、新羅高麗百濟即チ今ヲ征服ス、后歸ルニ及ビ、應神帝ヲ生

此後三行帝
相傳
藝林抄本

先尋テ皇后立テ、政ヲ執レリ、後、應神位ヲ繼ギ、百濟人博士王仁來朝シ、太子稚郎子、初メテ書ヲ學ブ、帝崩ズ、及ビ、太子自殺シテ、位ヲ皇兄仁德帝ニ讓ル、帝、寬仁ニシテ、善ク民ヲ治メ、海内富饒ナリ、仁德ヨリ、履仲、反正、允恭ヲ歷テ、安康帝ニ至ル、帝事ニ因テ、大草香皇子ヲ殺シ、終ニ其子眉輪ノ爲メニ弒セラル、雄略帝、雄豪ニシテ、頗ル殺戮ヲ嗜ム、清寧帝、代テ立ツ、雄略帝、嘗テ市邊皇子イフヲ殺セシガ、帝、其二子ノ潜居セル者ヲ養ハル、各位ヲ繼グ、之ヲ顯宗、仁賢トス、皆善ク政

此後三行帝
相傳
藝林抄本

此等事蹟皆
大逆無道
三命之危殆也

ヲ修メ、國內無事ナリシガ、武烈繼グニ及ビ、殘忍
 暴虐ニシテ、國人之ヲ苦シム、崩ジテ嗣ナシ、群臣
 乃チ應神五世ノ孫、繼體帝ヲ立ツ、次ニ安閑、宣化、
 皆賢明ニシテ、政ヲ修メ、又屢三韓ト戰フ、
 欽明帝位ヲ嗣グ時ニ、百濟國、佛像、經論ヲ獻ズ、是
 レ紀元千二百十二年ニシテ、佛法、日本ニ入ルノ
 初ナリ、欽明帝、敏達用明ノ三朝、頻ニ三韓ト
 兵ヲ交フ是ヨリ先キ、物部守屋ハ、佛ヲ惡シ、蘇我
 馬子ハ、之ヲ信ジ、互ニ隙アリシガ、用明崩ズルニ
 及ビ、馬子、廐戸皇子ト共ニ守屋等ヲ攻殺シ、崇峻



中大兄
鎌足ト
久鹿
ヲ殺ス凶

舒明ヲ歷テ女帝皇極位ヲ嗣グニ及ビ、馬子ノ子
 蝦夷、孫入鹿父子、朝權ヲ執リ、僭逆日ニ甚シ、因テ

帝ヲ立テ、馬子、獨リ朝權ヲ專
 ニス、帝、惡テ之ヲ誅セントセ
 シガ、馬子、却テ帝ヲ弑シ、女帝
 推古ヲ立ツ、廐戸初ヨリ馬子
 ト心ヲ合セ、是ニ至リテ、政ヲ攝
 シ、位階憲法等ヲ定ム、廐戸佛
 ヲ好シ、佛法遂ニ大ニ興ル、之
 ヲ聖德太子ト稱ス、推古、
 皇極位ヲ嗣グニ及ビ、馬子ノ子

中臣鎌足ナル者、皇子中大兄ト謀リ、紀元千三百
 五年、三韓ノ入朝スルニ當リ、終ニ入鹿ヲ、太極殿
 二殺シ、併セテ蝦夷ヲ殺ス、帝、乃チ位ヲ孝德帝ニ
 讓ル中大兄ヲ太子トシテ此歲大化ト改元ス、是レ年號ノ初ナリ、尋テ
 中大兄、太子ト爲リ、鎌足ト政ヲ輔ケ、大ニ制度ヲ
 創定シ、是ヨリ以前ハ國中封建ノ勢アリシガ、改
 メテ郡縣ノ治ト爲ス、蓋シ是ヨリ先キ、推古帝ノ
 時、紀元千二百六十六年、初メテ隋國ニ通シ、舒明
 二至リ、唐ニ通ゼシヨリ、爾來使臣往來絶唐使エ、當
 時其制度文學技術ノ百事、皆唐制ヲ傳フルモノ

唐使
 唐使
 唐使

ナリ、孝德崩シテ、皇極重祚ス、之ヲ齊明帝ト稱ス、
 此時阿部比羅夫ヲ遣シ、蝦夷ヲ伐チ、終ニ今ノ後
 方ノ地ニ到レリ、後、帝、筑紫ニ崩シ、太子嗣デ立ツ、
 之ヲ天智帝トス、
 天智帝位ニ即クノ後、屢ニ三韓ニ事アリ、又多ク律
 令ヲ定ム、後、帝、病篤シ、因テ皇弟大海人ニ、位ヲ讓
 シ、トセシガ、皇弟、辭シテ吉野ニ入ル、是ニ於テ、
 皇子大友ヲ太子トシテ崩ズ、時ニ紀元千三百三
 十一年ナリ、帝、初メ逆臣ヲ誅シ、國難ヲ平ゲ、又學
 校ヲ興シ、典禮ヲ制シ、治化粲然、號シテ中興トス、

此日也
 此日也
 此日也

太子弘文帝立ツキ及ヒ大海人吉野ヲ出テ去テ
 美濃ニ走テ兵ヲ舉グ帝之ヲ防ギ兩師大和、美濃
 二戰ヒ帝ノ師利アラズ後帝親シク瀨田ニ會戰
 シ終ニ敗レテ崩ズ因テ大海人自立シテ位ニ即
 ケリ之ヲ天武帝トス
 天武ヨリ持統ヲ歷テ文武ニ至リ朝廷ノ禮儀制
 法大ニ備ハル尋テ元明元正二女帝相繼テ位ニ
 昇ル皆賢ナリ是ヨリ先キ神武ヨリ歷世ノ帝世
 世都ヲ各地ニ遷セシガ元明ノ世紀元千三百七
 十年都ヲ大和ノ平城ニ定メ是ヨリ七世ノ間遷

天武ヨリ
 元明ノ世
 元正ノ世
 元正ノ世西島
 津守津守等ヲ
 鞠ニ送レセハ
 地ノ神ヲ
 地ノ神ヲ

仲磨
 五方

ラス之ヲ平城ノ七朝ト稱ス聖武帝代テ立チ佛
 法ニ惑溺シ姦僧玄昉ナル者皇后ニ寵アリシカ
 バ藤原廣嗣之ヲ除カントシ兵ヲ起シテ誅セラ
 ル後皇女位ヲ嗣グ之ヲ孝謙帝トス時ニ藤原仲
 磨ナル者寵ヲ得テ權ヲ專ニス尋テ帝位ヲ淳仁
 帝ニ讓ルリ此後上皇更ニ奸僧道鏡者ヲ寵
 シ仲磨之ヲ嫉ミ亂ヲ起シテ誅セララル後又上
 皇帝ヲ廢シテ重祚シ道鏡愈驕横ニシテ終ニ帝
 位ヲ篡ハント企テシガ和氣清曆ナル者直言ヲ
 以テ其姦ヲ挫セリ尋テ帝崩ジ藤原百川等道鏡

阿倍仲麻呂
老幼皆信
為其臣者
乃稱之志
仁宗世
後



田村磨
蝦夷ヲ
討ッ凶

ヲ敗シ、天智ノ孫光仁帝ヲ立
ツ、
一千四百四十二年、桓武帝代
ヤ直シ、英武ニシテ、大ニ文武
ノ政ヲ張り、都ヲ山城ノ平安
城ニ定メ、永ク帝都トス、即チ
今ノ西京ナリ、又陸奥ノ蝦夷、
久シク邊境ヲ擾亂セシカ、帝
ノ世ニ、阪上田村磨ヲ遣ハシ、
討テ、
平ガ、平城帝立

再興
仁宗朝
宇多朝
淳和朝
淳和朝
淳和朝
淳和朝

テ、位ヲ嵯峨帝ニ讓リシガ、後、上皇、寵姬藥子ノ兄
藤原仲成ノ勸ニ因リ、兵ヲ起シテ、重祚セントシ
テ亂アリ、夫ヨリ、淳和、仁明ニ帝ヲ歷テ、文徳帝ニ
至リ、國內無事ナリ、清和帝、賢明ニシテ、善ク政ヲ
治ム、是ヲ貞觀號ノ治ト稱ス、然レ、藤原良房、文
徳ノ朝ヨリ、太政大臣ニ任ジ、帝ノ立ツニ及ビ、萬
機ヲ攝政ス、是ヨリ、藤原氏世々朝權ヲ專ニスル
ニ至レリ、陽成帝立テ、狂昏ナリシカバ、攝政藤原
基經、之ヲ廢シテ、光孝帝ヲ立テ、相傳ヘテ、宇多帝
ニ至ル、賢主ナリ、菅原道真ヲ舉ゲ、基經ノ子時平

高田五各

八

支那の道

後工部道

三盛の道

天曆二年
五百九十九

ト其ニ政ヲ執ラシム、道眞ハ博學ニシテ、治體ニ
 通ズ、然ルニ醍醐帝即位ニ及ビ、時平等ノ讒ヲ以
 テ、道眞ヲ貶セリ、然レ氏帝、精ヲ勵マシ、治ヲ圖ル
 後世是ヲ延喜號年ノ治ト稱セリ、朱雀帝ニ至テ平
 將門東國ニ據テ叛キ、藤原純友モ亦四國ニ反シ、
 海内騷擾タリシガ、幾クモ無クシキ平ガ、村上帝
 立テ學ヲ好ミ、政ヲ施ス、寛恕ニシテ、朝廷ニ文
 學ノ士多ク、主政ノ盛ナルト、蓋シ帝ノ世ニ至テ
 極ナル、後ノ治ヲ謂フ者、必ス延喜ト天曆號年ヲ併
 ヲ稱セリ、此レは多ク為アリテ、他國漸ク弛シ、蓋シ王以盛ルテ、世ヲ久トス

三條後降
三世后

廿四ノ好シ
同ノ地多ク
南長、香花多
入ル

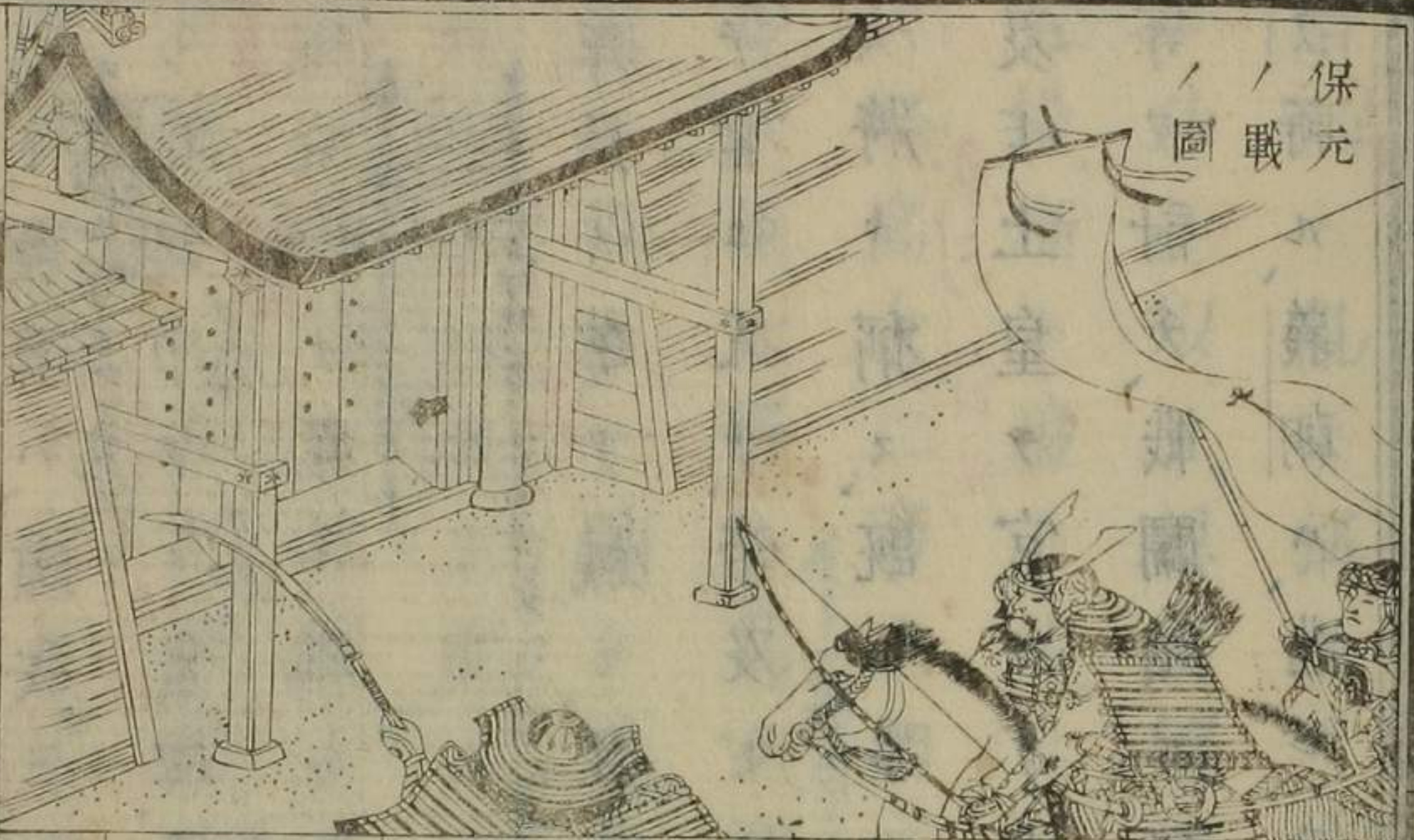
後降ノ女皇
新皇之皇女
二、三、我、三、カ
伊、野、ノ、カ

一千六百廿八年、冷泉帝嗣、是ヨリ圓融華山一
 條三條後一條、後朱雀、後冷泉八帝ノ間ハ、藤原氏
 政ヲ執リ、兼通兼家道長等世々權ヲ擅ニシ、就中
 道長、横專驕奢ナリシハ、實ニ前古ニ比ナシ、且
 朝廷ニハ淫奔ノ風習行ハレ、政治是ニ至テ大ニ
 紊レ、海内盜賊多ク、陸奥ノ安倍賴時、貞任等亂ヲ
 爲シ、源賴義、義家等之ヲ征シ、數年ニシテ、僅ニ之
 ヲ平グルトヲ得タリ、

シテ、藤原氏累世ノ權ヲ抑ヘ、親シク政ヲ執テ、大

ニ王政ノ衰ヘタルヲ挽回セシガ、不幸ニシテ、在
 位久シカラズ、^{太子ヲ立テ}白河帝、嗣^トデ立ツ、剛決ナレバ、驕侈
 ニシテ、愛憎意ニ任セ、位ヲ堀河帝ニ譲ル、後尚
 久シク政ヲ院中ニ執^{又深ク地ヲ任シ、御宇ニ於テは、四方の御用ヲ務メ}レリ、時^{堀河帝}清原武衛家衡等
 大ニ陸奥ヲ亂ス、源義家之ヲ伐テ、三年ニシテ、初
 メテ平グ、又、京地ニハ、延曆興福等ノ寺僧相爭鬪
 シ、諸國モ、亦、賊多ク、源平ノ武士互ニ相戦ヘバ、朝
 廷制スル^レ能ハズ、鳥羽帝立^テ後、位ヲ崇徳帝^{鳥羽}ニ
 譲リ、亦、政ヲ院中ニ聽キ、次^テ強^ヒテ崇徳ヲシテ、位
 ヲ其寵姫ノ生メル所ノ、近衛帝ニ譲ラシム、既ニ

此後鳥羽後
 以二帝ニ承傳シ
 遂ニ後以ツ龍
 キ天子大臣カ
 備ル^ルシ王
 以テ是ニシテ
 テ年一ニシテ



保元ノ戰ノ圖

シテ、近衛崩ゼシカバ、鳥羽法
 皇、更ニ、後白河帝ヲ立テタリ、
 一千八百十六年、鳥羽法皇崩
 ズ、崇徳上皇、藤原賴長^ト謀リ
 後白河帝ヲ廢シテ、重祚セン
 トシ、源^{義家}爲義、爲朝等ヲ召シテ、
 兵ヲ舉グ、帝モ、亦爲義ノ子義
 朝、及ビ平清盛等ヲ遣ハシ、兵
 ヲ將テ、上皇ノ宮ヲ攻メシム、
 爲朝等、力戦スレバ、遂ニ大ニ

菅原大島
流世後流世
ヲ定(世子)三
事(祖)子
考(後)大島
三流

敗レ、賴長ハ、流矢ニ死シ、帝乃チ上皇ヲ讃岐ニ流
シ爲義以テ、黨與、或ハ斬ラレ、或ハ流サル、之ヲ
保元其ノノ亂ト稱セリ後三年帝位ヲ二條帝ニ讓
ル藤原信賴上皇ノ寵ヲ恃テ驕肆ナリ義朝モ亦
平氏ノ勢ヲ嫉ミ其歳二人終ニ亂ヲ作シ兵ヲ率
テ官ニ入り帝及ビ上皇ヲ幽閉シ信賴自ラ大臣
大將ト稱ス既ニシテ清盛及ビ子重盛等僭ニ帝
及ビ上皇ヲ宮ヨリ出シ乃チ兵ヲ以テ信賴義朝
等ヲ討チ、戰鬪頗ル烈シカリシガ、遂ニ敗テ、信賴
ヲ斬ル、義朝ハ、逃レテ尾張ニ至テ殺サル之ヲ平

治年ノ亂ト稱セリ清盛重盛前後ノ亂ヲ平グル
ノ功ヲ以テ、恩賞優渥ナリシカバ、是ヨリ、平氏ノ
威權漸ク盛ナリ、二條六條高倉二帝ノ朝ニ及ビ、清盛及ビ子重盛宗盛
等大臣大將ト爲リ、驕奢ヲ極メ、朝廷ノ賞罰皆其
意ニ任セ、一門ノ勢權最盛ナリ、因テ藤原成親等、
後白河法皇ト謀テ、平氏ヲ滅セントセシガ、清盛
却テ其黨ヲ流斬シ是ヨリ、驕暴益甚シ、安徳帝位
テ立ツニ及ビ、源賴政以仁王ヲ奉ジ、兵ヲ起シテ
平氏ヲ伐チ、克クテ成ス、是ヨリ先キ、義朝ノ

子頼朝流サレテ伊豆ニ在リシガ、是ニ至テ、亦兵
 ヲ起シ（頼朝）源義仲モ、亦水曾ニ起リ、諸國之ニ應ジ、平
 軍之ヲ討テドモ克タズ、既ニシテ清盛薨ジ、尋デ
 義仲京師ニ迫リ、宗盛終ニ帝及ビ宗族ヲ將テ、西
 海ニ奔レリ、是ニ於テ、後白河法皇、別ニ後鳥羽帝
 ヲ京師ニ立ツ、故ニ此時ニ帝竝ヒ立テリ、義仲京
 ニ入リシヨリ、驕暴甚シ（義仲）時ニ、頼朝關東ニ據ル、依
 テ其二弟、範頼、義經ヲ遣ハシ、義仲ヲ攻メ、大ニ京
 地ニ戦ヒ（義仲）シカ、義仲終ニ敗レテ死ス、是時ニ當テ、
 平氏ハ、西海ニ在テ、軍勢復（平氏）タ振（根柢）ヘリ、義經又之ヲ

守後地以ノ
後白河法皇ヲ

鶴岡八幡藏頼朝ノ像



攻メテ（頼朝）屢戦爭アリシガ、後終ニ大ニ壇浦ニ戦テ
 之ヲ敗リ、安德帝及ビ平氏ノ宗族悉（平氏）ニ滅亡セリ、
 一千八百四十五年是ヨリ先（源氏）キ源頼朝（源氏）屠（相持）ヲ鎌倉
 ニ開（定）キシガ、此歳争亂ノ後ヲ、鎮撫センガ為メニ
 頼朝奏シテ、諸國ノ國司ニ守護ヲ置キ、莊園ニ地
 頭ヲ置キ、悉ク家人ヲ以
 テ之ニ任ジ、自ラ（日本）總追捕
 使ト爲リ、後又征夷大將
 軍ニ任ゼリ、是ヲ將軍ノ
 始トス、是ヨリ後、全國兵

秀衡三子
重北形勢
宇部氏は本
氏の本姓大
朝長は加
三子は加
加

馬ノ權、悉ク武門ニ歸スル。數百年ニ至リ、朝廷ノ權、大ニ衰フ。賴朝、義經、兄弟隙アリテ、義經逃レテ、陸奥ノ、藤原秀衡ニ依レリ、秀衡死スルノ後、賴朝、其子泰衡ニ迫リテ、義經ヲ殺サシム。次テ、又、泰衡ヲ亡シテ、陸奥ヲ平ゲタリ、初、高平仲平、義經ノ弟、陸奥ニ在リ、泰衡、義經ノ弟、陸奥ニ在リ、泰衡、義經ノ弟、陸奥ニ在リ、初メ、賴朝ノ伊豆ニ在ルヤ、北條時政ニ依リ、其女政子ニ通ジ、其起ルニ及ビ、時政モ、亦與リテカアリ、故ニ北條氏、特ニ賴朝ニ寵セラレテ、威權アリ、一千八百六十年、賴朝薨ズ、子賴家、嗣デ將軍タリ、賴家狂昏ニシテ、政ヲ視ズ、時政、終ニ政子ト謀リ、

執權ノ解

之ヲ伊豆ニ幽シテ、之ヲ殺シ、其弟實朝ヲ立テ、將軍トス、既ニシテ、時政、又之ヲ殺サシム。時政、バ、時政ノ子義時、父ヲ伊豆ニ幽シ、代テ執權ト爲ル、後、和田義盛ナル者、北條氏ヲ嫉ミ、兵ヲ起シテ、之ヲ攻メシガ、義時ノ子泰時、伐テ之ヲ平ゲタリ、此後、實朝ハ、鶴岡ノ祠ニ於テ、其姪公曉ナル者ノ爲メニ殺サレ、是ニ於テ、源氏ハ、賴朝ヨリ三世、凡ソ四十年許ニシテ亡ズ、是レ一千八百七十九年ナリ、將軍實朝、既ニ歿シテ、嗣子ナカリシカバ、北條義

時政子ト謀リ、京師ニ乞ヒ、藤原道家ノ子、賴經ヲ
迎ヘテ、鎌倉ノ主ト爲シ、政子、政ヲ聽ク、是ヲ尼將
軍ト稱ス、是ヨリ、北條氏、源氏ニ代テ、全國ノ權ヲ
握レリ、

是時ニ當テ、京師ニハ、後鳥羽帝ヨリ、土御門、順徳、
仲恭三帝、相嗣デ立ち、而シテ、後鳥羽上皇、政ヲ院
中ニ聽ケリ、上皇、初メヨリ、源氏ノ、威權ヲ專ニス
ルヲ憤リシガ、實朝死スルニ及ベドモ、北條氏、尚
代テ、其權ヲ維持スルヲ怒リ、終ニ兵ヲ集メテ、北
條氏ヲ討ツ、是ニ於テ、義時ハ、泰時等ヲシテ、大軍

後鳥羽上皇
土御門順徳
仲恭上皇
源氏頼朝

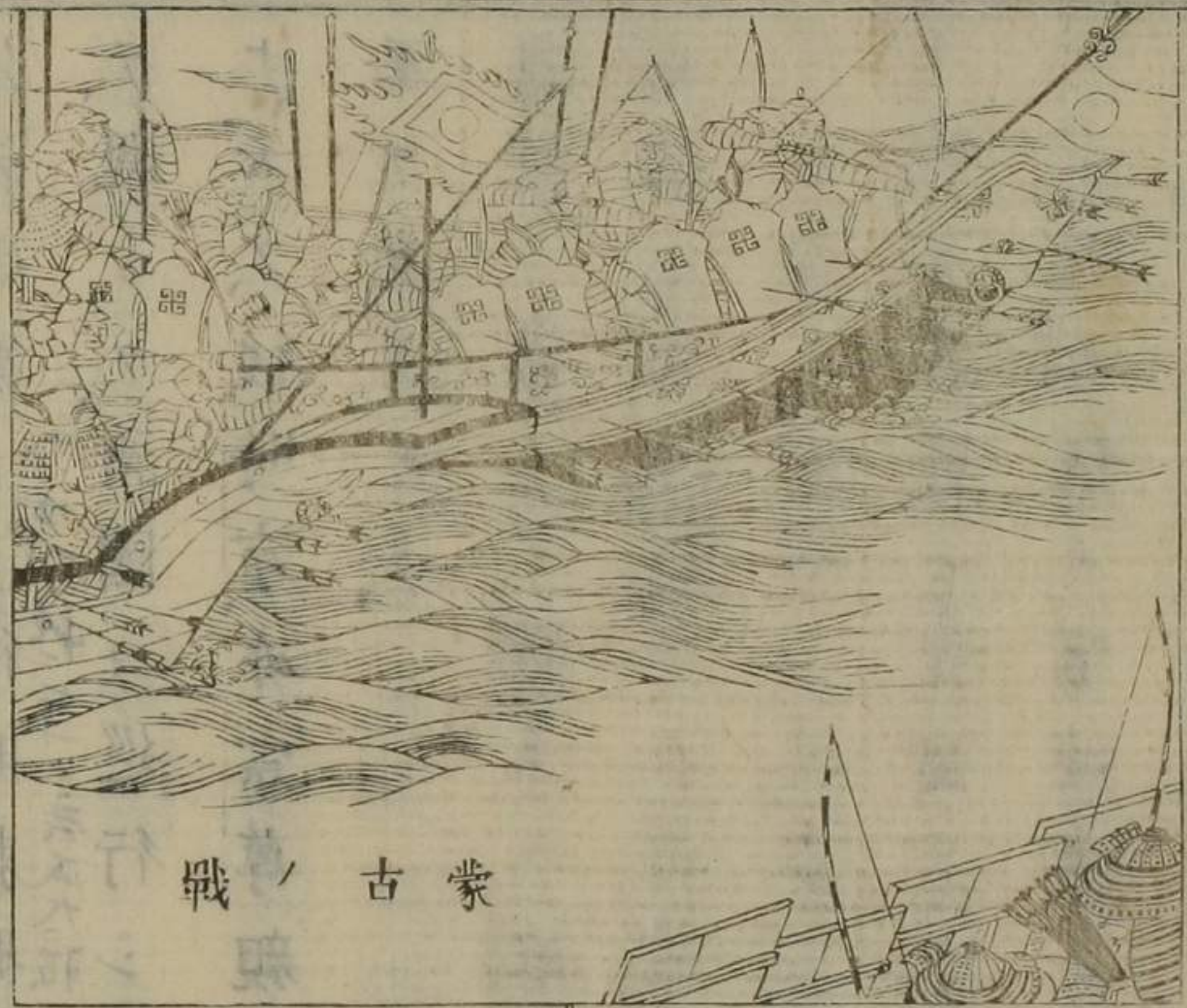
ヲ率井テ、京師ヲ攻メシメ、屢勢多、宇治等ニ戰ヒ、
終ニ破テ、京ニ入り、帝ヲ廢シテ、後堀河帝ヲ立テ、
三上皇ヲ、各地ニ流遷セリ、是ヲ、承久年ノ役ト云
フ、是ヨリ、北條泰時、時房、京師ノ六波羅ニ居テ、京
地ヲ鎮シ、北條氏ノ威權、益定マレリ、
泰時、義時ニ代リテ、執權ト爲ル、寛公勤儉ニシテ、
最モ心ヲ政治ニ留メ、凡此大ニ行レ數十年ノ亂後ニ、國內、漸ク
無事ナリ、千九百二年、泰時卒ス、孫經時、時賴、相嗣
ギテ、執權ト爲ル、時ニ、將軍賴經ヲ廢レテハ、既ニ職ヲ辭シ
テ、經時其子賴嗣ヲ立テタリ、經時時賴ハ世ニ及ビ、時

奉時時
神學
記

賴ノ於光時ナル者、賴經ヲ勸メ、時賴ヲ滅セント
セシカハ、時賴乃チ光時ヲ流シ、賴經ヲ京ニ逐ス、
既ニシテ、三浦泰村ノ於光村モ、亦、賴經ヲ復セン
トシテ、事ヲ舉ゲ、泰村等、舉族ト、亦皆時賴ノ攻殺
マ所ト爲ル、賴經モ、亦兵ヲ京師ニ集メテ、事露レ、
時賴、乃チ賴嗣ヲ廢シテ、京ニ送レリ、時ニ京師ニ
在テハ、後堀河帝ヨリ、四條帝、後嵯峨帝、後深草帝、
相傳ヘテ立テリ、時賴、依テ後嵯峨上皇ノ皇子、宗
尊親王ヲ迎ヘテ、鎌倉ノ主トセリ、時賴、意ヲ銳ニ
シテ、治ヲ圖リ、嘗テ青砥藤綱ナル者ヲ選舉シ、政

世以可生佳惜
ヲ高ニ定ニ而
ノ事ヲ成セリ

治皆廉潔ナリ、後、時賴職ヲ子時宗ニ傳ヘ、僧ト爲
テ、親シク、諸國ヲ巡行シテ、民ノ冤枉ヲ省察セシ
ト云フ、後、時宗、亦宗尊親王ヲ廢シテ、其子惟康親
王ヲ立テタリ、
是時ニ當リテ、唐土ハ、宋朝ノ世ナリシガ、北方蒙
古國ノ、忽心烈ナル者、宋ヲ滅シテ、國號ヲ元ト改
メ、近隣ヲ威服シ、又、書テ、我日本ニ來シテ、好ヲ求
ム、時宗、其書ノ無禮ナルヲ以テ之ヲ卻ケテ受ケ
ズ、其後、元、復々屢使者ヲ來セシガ、時宗、或ハ之ヲ
逐ヒ、或ハ之ヲ斬リ、乃チ北條實政ヲ九州ノ探題



蒙古ノ戰

トシ、兵ヲ遣テ、大ニ元ノ
 寇ニ備ヘタリ、千九百四
 十一年、元主、果シテ范文
 虎等ヲ將トシ、兵十萬ヲ
 發シテ、來リ寇シ、壹岐對
 馬ヲ破テ、九州ヲ攻ム、我
 九州ノ將士、之ヲ防デ、大
 ニ戰ヒ、互ニ勝敗アリシ
 々、會、大風雨アリテ、敵艦
 皆海中ニ破壊シ、我兵之

ニ乗ジ、撃テ之ヲ殲シ、十萬ノ兵ニ、生キテ還ハル
 ヲ得ル者、僅ニ三人ノミ、是ヲ弘安^年ノ變ト云フ、
 時宗、強毅ニシテ器略アリ、能ク元兵ヲ破テ、我國
 ヲ全ウセシハ、實ニ其力ナリ、
 時宗ノ子貞時、嗣デ執權タリ、安達景盛ナル者、横
 專ナリシカバ、伐テ其族ヲ滅シ、又、惟康將軍ヲ廢
 シテ、別ニ後醍醐^帝ノ皇子、久明親王ヲ迎ヘテ、將
 軍トシ、後、又之ヲ廢シテ、其子守邦親王ヲ立ツ、貞
 時モ、亦、時賴ノ風ヲ慕シテ、心ヲ政事ニ專ニシ、職
 ヲ辭スルノ後、亦、竊ニ出デ、四方ヲ巡察セリト

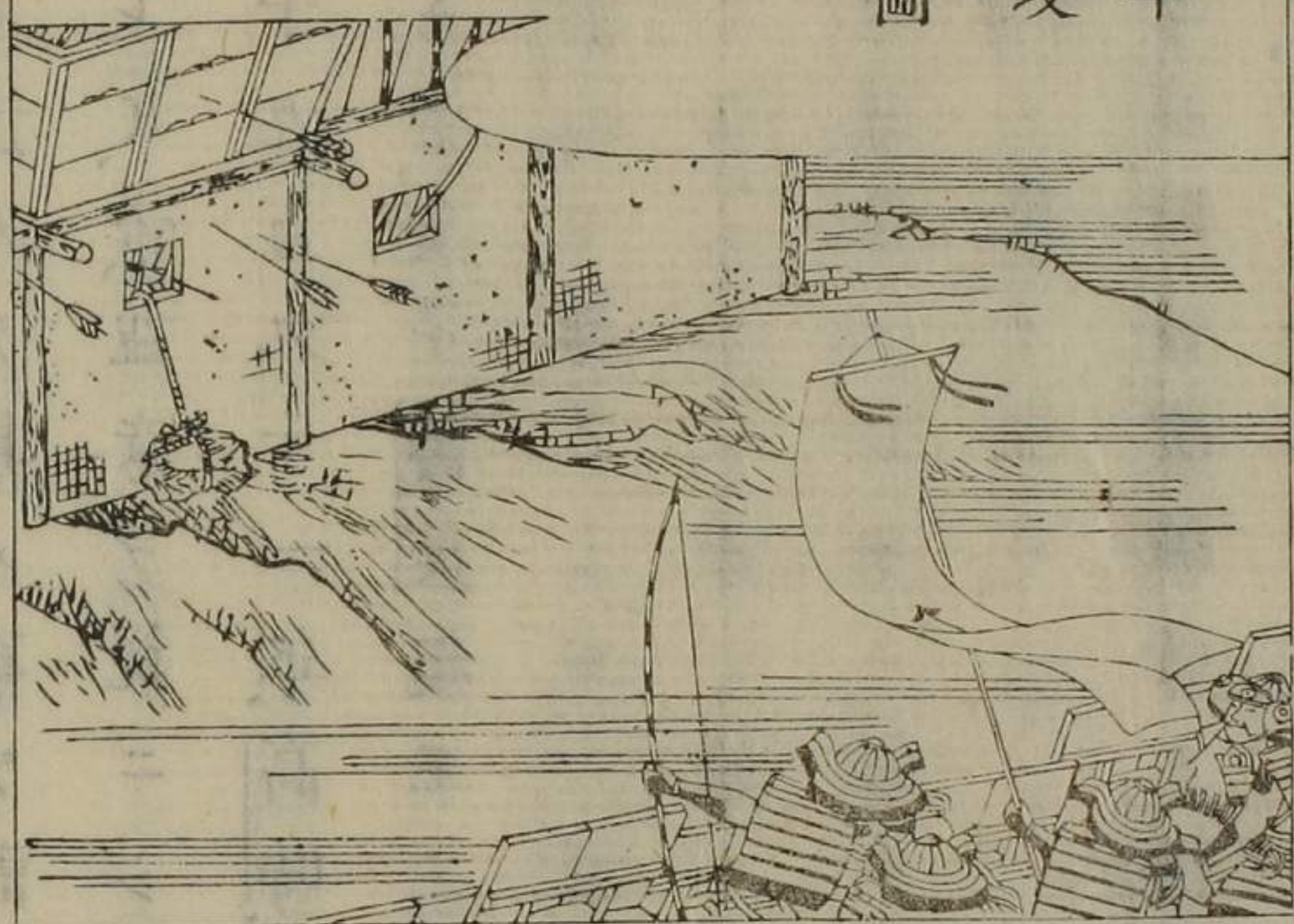
云フ、

貞時ノ子高時、幼ニシテ職ヲ嗣ギ、長ジテ昏愚ナリ、田樂、鬪犬等ノ戯ヲ好ミ、日夜遊宴ヲ事トシ、而シテ、内管領長崎高資、貪殘ニシテ、權ヲ恣ニセシカバ、諸國頗ル叛ク者アリ、然レモ平グルコ能ハズ、是時ニ當テ、京師ニハ、後醍醐帝位ニ在リ、是ヨリ先キ、後深草帝ヨリ後、龜山、後宇多、伏見、後伏見、後二條、花園ノ六帝、相傳ヘテ以テ、今帝ニ至レリ、帝意ヲ政治ニ勵マシ、又、高時ノ昏亂ヲ見テ、之ニ乗ジテ、北條氏ヲ滅セントシ、藤原資朝、俊基等ト

謀リ、武人ヲ集メ、事ヲ計リシガ、謀泄レテ成ラズ、然レモ、帝、益意ヲ銳ニシテ、興復ヲ謀レリ、是ニ於テ、千九百九十一年、高時、終ニ兵ヲ送テ、京ニ入ラシム、帝、皇子護良親王ノ謀ニ從ヒ、宮ヲ出テ、走テ笠置山ニ據リシガ、六波羅ノ北條仲時等、攻メテ之ヲ陷シイレ、帝ヲ捕ヘテ、六波羅ニ移シ、高時、別ニ光嚴帝ヲ立テ、位ニ即カシム、此歳ノ戦ヲ、元弘号ノ亂ト云フ、

明年高時、後醍醐帝ヲ、隱岐島ニ流ヌ、兒島高德ナル者、帝ヲ路上ニ奪ハントシテ、成ラズ、時ニ楠正

千早城攻之圖



成ナル者アリ、帝ノ笠置ニ在ル時、敕託ヲ受ケテ、興復ヲ謀リ、去年、河内ノ赤坂城ニ據テ、兵ヲ舉ゲ東軍之ヲ攻メ、正成能ク防ギシガ、糧盡キテ走リ、今年、又起テ、攝河泉ヲ平ゲ、屢六波羅ノ兵ヲ破テ、終ニ千早城ニ據ル、時ニ護良親王モ、亦、兵ヲ起シ

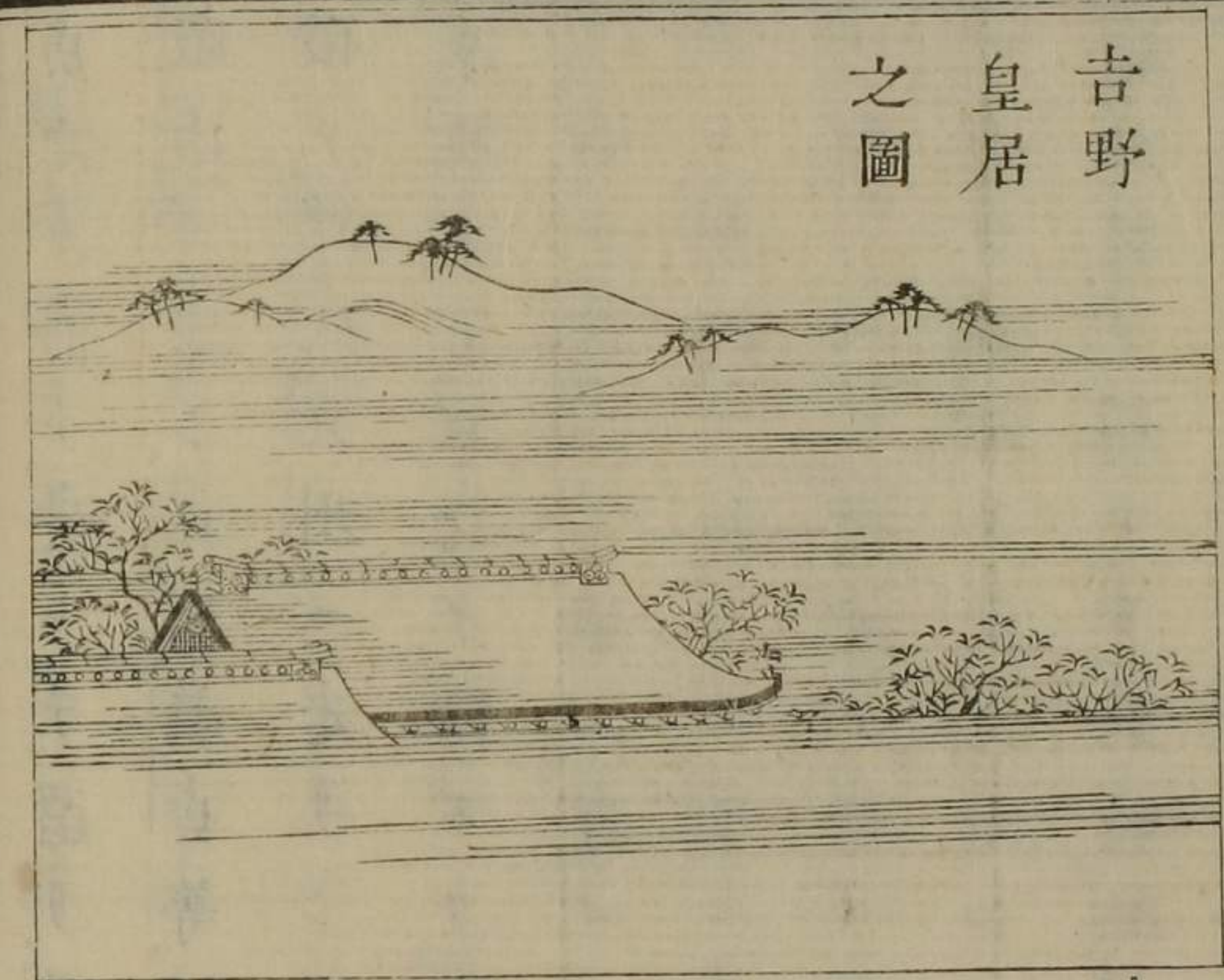
テ吉野ニ城ケリ、是ニ於テ、高時、再々大軍ヲ發シテ先ヅ攻メテ、吉野ヲ陷シ、依テ總軍ヲ合シテ、千早ヲ攻メシガ、正成、堅ク守テ、屢之ヲ退ケタリ、是時ニ在テ、諸國、官軍ニ應ズル者多ク、帝モ、亦、竊ニ隱岐ヲ逃レテ、伯耆ニ還リ、名和長年ナル者、帝ヲ奉シテ、兵ヲ起セリ、東軍ノ將足利尊氏、官軍ニ降り、赤松則村等ト、兵ヲ合セテ京ヲ攻ム、時ニ新田義貞ナル者モ、亦、兵ヲ上野ニ起シ、屢高時ノ兵ヲ破リ、終ニ攻メテ、鎌倉ニ入り、北條高時、及ビ一揆悉ク亡ビ、京師ニ在テモ、亦、同時ニ、官軍六波

羅ヲ攻メテ、之ヲ滅セリ、是レ紀元千九百九十四年ナリ、蓋シ北條氏ハ、凡ソ九代、百餘年ニシテ亡ビタリ、

是ニ於テ、後醍醐帝、京師ニ還リ、光嚴帝ヲ廢シテ、位ニ復シ、同中再初夫ハ本マナリ、政治ヲ改革シ、正成、義貞、尊氏等ノ功臣、皆、恩賞アリテ、中興ノ業、頗ル定マレリ、然ルニ、是時ニ及ンデ、帝、漸ク宴遊ニ耽リテ、政治頗ル亂レ、尊氏、獨リ寵ヲ專ニシ、護良ヲ讒シ、又、義貞ト隙ヲ起セリ、次デ、北條氏ノ餘黨、東國ニ起リシカバ、尊氏、往テ之ヲ平ゲ、終ニ鎌倉ニ據テ叛ケリ、義

貞、之ヲ討チ、破レテ還リ、尊氏、逐フテ京ヲ攻ム、帝、獻山ニ幸シ、正成、義貞等、屢、京地ニ戰ヒ、終ニ之ヲ破テ、尊氏、九州ニ走リシガ、忽チ、又、大軍ヲ舉ゲテ、來攻ム、官軍、之ヲ防ギテ、正成、戰死シ、義貞還テ、再ビ、帝ヲ、獻山ニ奉ズ、是ヨリ、屢、戰爭アルノ後、帝、一タビ、尊氏ト和シテ、京ニ入り、既ニシテ、又、逃レテ吉野ニ入テ、皇居ヲ定ム、是ヨリ先キ、尊氏、別ニ光明帝ヲ、京師ニ立ツ、是ヨリ兩帝並ビ立チ、是ヲ南朝、北朝ト稱セリ、此歲、紀元千九百九十六年ナリ、是時ニ當テ、官軍、尚、諸國ニ振ヒシガ、後、義貞ハ、北

吉野
皇居
之圖



國ニ戰歿シ、後醍醐帝ハ、
吉野ニ崩ジ、源顯家、正成
ノ子正行等ヲ始メトシ、
新田、楠等ノ宗族、尚、屢、起
テ、南朝ノ興復ヲ謀リシ
カド、其勢、次第ニ衰ヘ、國
中、大抵、足利氏ニ歸シ、是
ヨリ先キニ、北帝、尊氏ヲ、
征夷大將軍ニ任ジ、是ヨ
リ、足利氏、世々、京師ニ居

足利氏源義満
上地ノ人

リ、北條氏ニ代テ、全國ノ權ヲ掌握セリ、是ヲ室町
將軍ト稱ス、尊氏ノ弟直義、兄ヲ助ケテ功多ク、威
權アリ、家臣高師直モ、亦執事ト爲リ、功ヲ恃ミテ、
專恣ナリ、終ニ互ニ隙ヲ起シ、是ヨリ後ハ尊氏、直
義、尊氏ノ庶子直冬、及ビ師直、其他ノ家臣等、父子
兄弟君臣、互ニ相攻戰シ、南軍モ、亦屢、其間ニ起テ
來リ攻メ、此後數十年ノ間、全國、殆ド戰鬪ノ止ム
時無シ、
紀元二千十六年、尊氏薨ズ、長子義詮、代テ將軍ニ
任ジ、京ニ居リ、次子基氏、別ニ鎌倉ニ居テ、關東ヲ

南北朝の事
此世の事
義満の事

管領セリ、義詮ノ子義満幼ニシテ職ヲ嗣ギ、細川
頼之ナル者、之ヲ輔佐ス、義満豪邁ニシテ驕奢ナ
リ、然レモ能ク山名氏清、大内義弘等ノ強臣ノ亂
ヲ討平シ、且是ヨリ先キ、南朝ハ、後村上、長慶、後龜
山ノ三帝相傳ヘ、北朝ハ、光明帝ヨリ、崇光、後光嚴、
後圓融、後小松ノ四帝相傳ヘテ立チシガ、義満ノ
世ニ及ビ紀元二千五十二年、義満和ヲ講シテ、南
北ノ兩朝終ニ相和睦シ、後小松ノ位ヲ後光嚴ニ譲リ皇系初メテ後小松帝ニ
一統セリ、蓋シ、南北ノ兩朝相分レシト、五十餘年
ノ間ナリキ、故ニ義満ノ世ニ、國內略其統一スル

南北朝の事
此世の事
義満の事

所ト爲リ此時ヲ以テ、足利氏ノ最盛ナル時トセ
リ、
義満、豪侈ニシテ、嘗テ、金閣ヲ北山ニ造リテ之ニ
居リ、舉止天子ニ擬シ、又、明國ニ通ジ、世に云ふ所其封ヲ受ケ、
日本國王ト爲ル、驕奢實ニ極レリ、義満ノ子義持、
職ヲ嗣グ、柔情ナリ、後、職ヲ子義量ニ譲ル、義量、登
ク薨セシカバ、義持ノ弟義教、其後ヲ嗣ゲリ、
時ニ、鎌倉ニハ、基氏ヨリ、氏満、滿兼、相續テ、持氏ニ
至リシガ、兵力頗ル強クシテ、屢、室町ノ命ニ從ハ
ス、又後、持氏、其執事上杉憲實ヲ逐ヒ、隙ヲ起シ、義教持氏ニ相戦ヒ

シガ二千九十九年ニ至リ、持氏終ニ敗死シ、義教乃チ上杉氏ヲシテ關東ヲ管領セシム、後持氏ノ季子成氏再ビ立チシガ亦上杉氏ト戦ヒ、退テ古河城ヲ保チ、是ヨリ關東兵亂常ニ絶エズ、將軍義教赤松滿祐ノ領地ヲ割テ、其族赤松貞村ニ與ヘントセシカバ、滿祐怒リ、二千百一年、義教ヲ巳レノ第二饗シテ之ヲ害セリ、是ニ於テ、諸臣、義教ノ子義勝ヲ立テ、伐テ滿祐ヲ殺ス、義勝幼ニシニ薨ジ、弟義政嗣グ、昏惰ニシテ、其下ヲ御スル一能ハズ、管領解島山持國威權獨リ盛ナリ、持國子

無ク、初メ、姪政長ヲ養テ嗣トセシガ、後子義就ヲ生ムニ及ンデ、政長ヲ廢ス、山名宗全細川勝元持國ノ權ヲ嫉ミ、政長ヲ援ク、是ヨリ、政長、義就、屢京地ニ戦ヘリ、將軍義政モ、亦初メ子無ク、弟義視ヲ嗣トセシガ、後ニ子義尚ヲ生メリ、是ニ於テ、勝元ハ義視ヲ助ケ、政長之ニ屬シ、宗全ハ義尚ヲ助ケ、義就之ニ屬シ、兩黨ノ隙日ニ甚シ、二千百廿七年應仁元年兩黨終ニ大ニ兵ヲ起シ、諸國ノ將士、黨ヲ分テ相屬シ、各其兵ヲ率井テ京ニ入ル、合シテ三十萬人、尋テ京地ニ相戦ス、是ヨリ後

凡ソ十一年間、兵結デ解ケズ之ヲ應仁^年ノ亂ト稱



義政
茶宴
ノ圖

シ、京中ノ文武第宅、皆兵
火ニ罹リ、天朝幕府ノ令
更ニ行ハレズ、國內ノ騷
亂、實ニ極マレリ、然レモ
義政之ヲ制スル^{能ハ}
ズ、兵散ズルノ後、却^{賦役ヲ停}テ奢
靡ヲ事トシ、東山ニ銀閣
ヲ築^{日山珍寶ヲ集メ}キ、茶宴ヲ以テ樂ト
ス、義政ノ子義尚、職ヲ農

ヒテ、早ク薨ゼシカバ、義政、乃チ義祖ノ子義植ヲ
嗣^トセリ、^{細川}義植、職ヲ嗣^トダノ初メニ當リ、畠山政長、管領ト爲
リテ、驕横ナリシカバ、細川政元ナル者、終ニ叛テ、
兵ヲ起セリ、政長依テ義植ヲ奉ジテ、之ヲ伐チ、
ガ、政長、却テ敗死シ、義植ハ、周防ニ奔リテ、大内義
興ニ依レリ、政元、乃チ義政ノ姪義澄ヲ立テ、將
軍トシ、已レ代テ、管領ト爲レリ、既ニシテ、政元其
族ノ爲メニ殺サレシカバ、家臣三好長輝、亂ヲ平
ケ、義澄ニ乞ヒ、政元ノ族澄元ヲ立テ、管領トス、

然ルニ大内義興此亂ニ乘シ故將軍義植ヲ奉ジ
 テ京ニ迫リシカバ澄元長輝阿波ニ走リ義澄ハ
 近江ニ逃レ尋テ薨ズ是ニ於テ義植再ビ將軍ト
 爲リ義興ヲ管領トス既ニシテ義興周防ニ還リ
 畠山高國之ニ代リシガ後義植高國ト隙ヲ起シ
 義植淡路ニ走リ尋テ薨ズ高國仍テ義澄ノ子義
 晴ヲ迎ヘテ將軍トス後三好元長ナル者細川晴
 元ヲ奉シ高國ト戰テ之ヲ破リ晴元依テ管領ト
 リ將軍義晴職ヲ子義輝ニ讓ル是時ニ當テ細川
 ノ家臣三好ノ族漸ク強盛ニシテ將軍管領ノ威

茲ニ行ハレズ三好長慶ニ到リ屢戰テ晴元ヲ逐
 七終ニ細川氏ニ代テ京畿ヲ政ヲ執ル既ニシテ
 三好ノ臣松永久秀漸ク威權アリ後終ニ三好ノ
 族ト共ニ義輝ヲ攻メテ之ヲ害シ義晴ノ姪義榮
 ヲ立テ將軍ト爲ス此歳紀元二千二百廿五年
 ナリ

應仁ヨリ以後京畿兵亂相尋テ足利氏ノ威令益
 衰ト諸國ノ將士亦各地ヲ奪テ相攻テ割據シ兵ヲ以テ
 相攻戰ハ就中相關東ノ比條氏甲斐ノ武田氏越後
 ノ上杉氏駿河ノ今川氏尾張ノ織田氏美濃ノ齋

藤氏近江ノ淺井氏越前ノ朝倉氏及ビ中國ニ至
 テ尾子大内毛利氏四國ノ長曾我部氏九州ノ大
 友龍造寺島津氏等其最大ナル者ニシテ其他處
 時ニ極マレリ
 北條早雲ナル者ハ二千百五十年延徳三年伊豆ニ
 起テ國中ヲ略シ尋テ相摸口取テ小田原城ニ據
 上杉及
 古河ノ足利氏安房ノ里見氏等アリシガ早雲
 子氏綱屢兩土杉氏ヲ破テ武藏ヲ略シ末里見

氏ヲ下總ニ破ル氏綱ノ子氏康ニ及ビ亦屢兩上
 杉ト戰セ二千二百六年天文十年氏康ノ族綱成河
 越城ヲ守リシガ兩上杉及ビ足利氏大舉シテ之
 ヲ攻ム氏康謙信ヲ盡クシ能ク寡兵ヲ以テ軍ヲ
 破ル此一戰ヲ以テ關東八州悉ク北條氏ノ兼并
 木ル所ト爲リ此時越後ニ上杉謙信アリ越後
 越中能登等ヲ平ゲ其勢甚ク強シ武田信玄モ亦
 同時ニ信濃ニ起リ初メ其父信虎ヲ逐テ國ヲ奪
 ヒ、韃靼甲斐ヲ餘不信濃ノ村上義清等備女ヲ抗
 ナル能ハズ逃レテ援ヲ謙信ニ乞フ是ニ於テ二

氏康ニ及ビ亦屢兩上杉ト戰セ
 越城ヲ守リシガ兩上杉及ビ足利氏大舉シテ之
 ヲ攻ム氏康謙信ヲ盡クシ能ク寡兵ヲ以テ軍ヲ
 破ル此一戰ヲ以テ關東八州悉ク北條氏ノ兼并
 木ル所ト爲リ此時越後ニ上杉謙信アリ越後
 越中能登等ヲ平ゲ其勢甚ク強シ武田信玄モ亦
 同時ニ信濃ニ起リ初メ其父信虎ヲ逐テ國ヲ奪
 ヒ、韃靼甲斐ヲ餘不信濃ノ村上義清等備女ヲ抗
 ナル能ハズ逃レテ援ヲ謙信ニ乞フ是ニ於テ二

川中島ノ戦



徒ヒシガ義隆ノ臣陶晴賢ナル者、叛テ義隆ヲ弑

千二百十三年天文十三年日

武田上杉ノ兩軍、兵ヲ

信濃川中島ニ交フ

十三年間及バリ

中國ニ在テ小尾子晴久

出雲ヲ據リ、大内義隆周

防長門ヲ據シ、毛利元

就ナル者、安藝ニ起ル

尾子ニ屬シ、後、大内

其國ヲ奪乙、又、千二百十五年、弘治元年、元就

終年、兵ヲ擧ゲテ、晴賢ヲ、嚴島ニ誘ヒ、寡ヲ以テ衆

ヲ破リ、晴賢ヲ斬ル、依テ、元就防長四州ヲ并セ、事

後、又、尾子氏ヲ富田城ニ圍ム、七年、元就ニシテ、十

千二百廿六年、永祿九年、終ニ、之ヲ降シ、是ニ於テ、山陰

山陽ノ十國悉ク、毛利ニ歸セリ、元就ノ子、吉川元

春、小早川隆景皆父ヲ助ケテ功多シ、隆景、隆景、隆景

東海道ニ在テハ、織田信長ナル者、尾張ヲ略シ、合

川、義元ナル者、駿河ニ據ル、二千二百廿年、永祿三年、義

元、大坂ヲ攻メ、進テ桶峽ニ至リシガ、信

長、長、長、長

高田史記
千二百十五年
弘治元年

長、夜風雨ニ乗ジ、寡兵ヲ以テ其陣ヲ襲キ、大ニ敗

テ、義元ヲ斬ル。是ヨリ、信長ノ威名、海道ニ振ヘリ、

是時ニ當キ、京都ニハ、正親町帝位ニ在リ、初メ、後

小松帝ヨリ、稱光帝、後花園帝、後土御門帝、後柏原

帝、後奈良帝ヲ歴テ、今帝ニ至リシガ、此七帝ノ間、

正ニ足利氏ノ爭亂、世ニ屬シ、國中悉ク亂シテ、更

ニ皇室ヲ崇奉スル者無ク、皇統僅ニ絶エザルヲ以テ、

綏々如ク、其衰廢實ニ極マリキ是ニ至リテ、帝遙ニ

信長ノ威名ヲ聞キ、使ヲ遣ハシテ、囑メ、爾等ノ撥亂

友正ノ事ヲ以テ、信長謹テ勅命ヲ領シ、是ヨリ、

由夜ニ、西上、伊事ヲ謀ル。二千二百廿四年、永祿、終

ニ、兵ヲ發シ、美濃ヲ攻メ、齋藤龍興ヲ滅ス、其國

ヲ併ス、時ニ將軍足利義輝正ニ、弑セラレ、其弟義

昭、諸國ニ流寓シ、終ニ來テ、信長ニ投ジ、興復ノ事

ヲ托ス。是ニ於テ、二千二百廿八年、永祿十、信長

舉シ、近江ニ入り、攻メ、木角義賢ヲ、近江ノ主、好

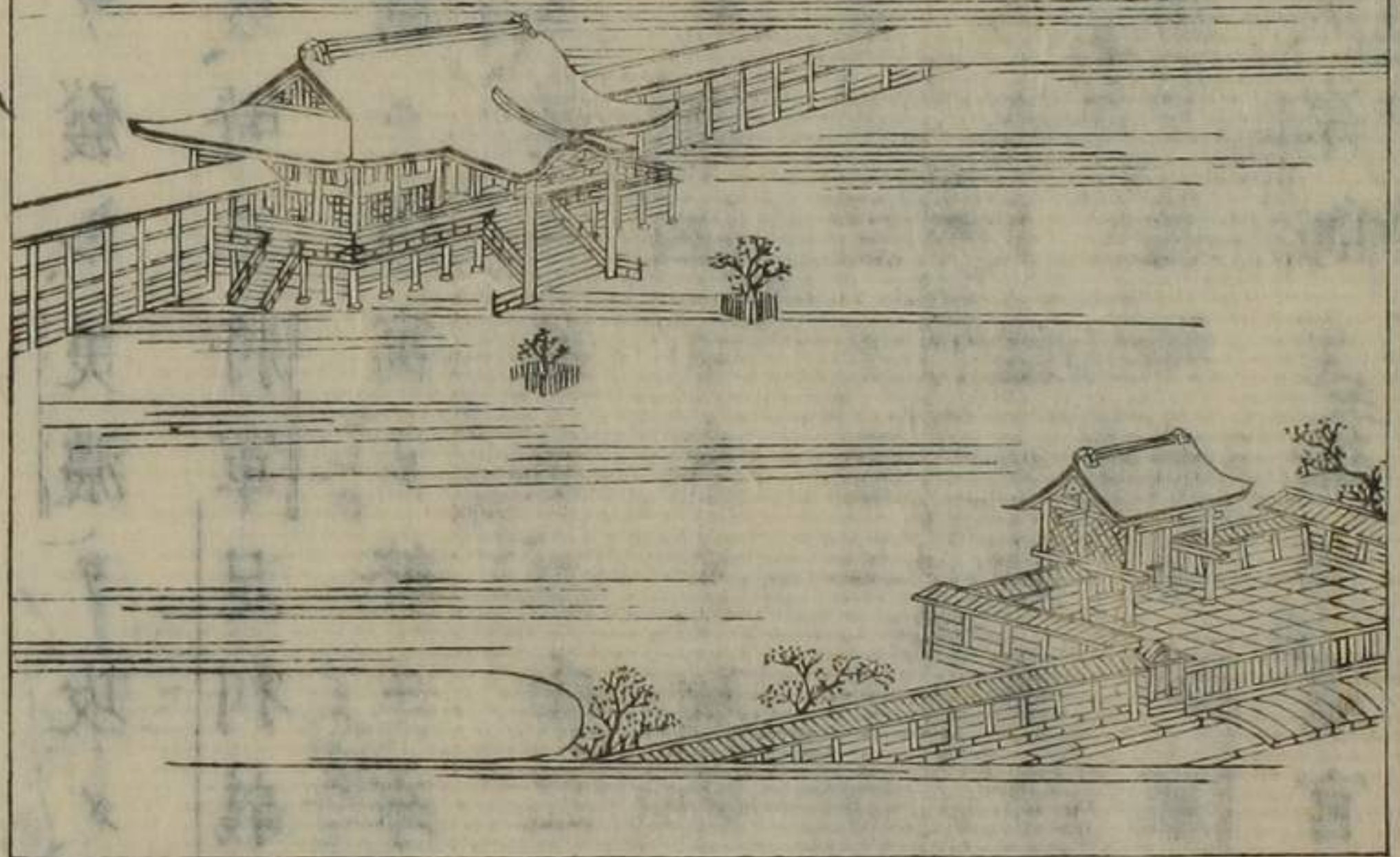
ノ黨、之ヲ聞キ、恐レテ、京ヲ逃レシカバ、信長、亦

京師ニ入り、悉ク、近畿ヲ定ム。時ニ、將軍義榮、既

卒ズ、依テ、義昭、代テ、將軍トシ、信長、其將羽柴秀吉

ヲシテ、京師ヲ衛ル。皇宮ヲ修メ、此後、屢供御

内裏新築圖



百四十四年ニシテ云ズ

ヲ奉^ル以^テ皇室ノ^再興
セ^リハ、實ニ信長ノ力カ
キ、^其既^ニ未^キ義昭信長ノ
隙ヲ起シ、二千二百三十
三年、^{天正}兵ヲ舉^ゲシガ、
却^リテ、信長ノ爲^メノ破^ラ
レ、義昭ハ後毛利氏ニ依
テ終^リ、是^ニ於^テ足利
氏ハ尊氏^ノ十五代ニ

高田史記

信長
三光

信長既ニ義昭ヲ破^ルニ及^ビ、終^ニ足利氏ニ代^リテ、
政令ヲ京畿ニ施^スセリ、是ヨリ先^ニ信長既ニ伊勢

ヲ定^メ、又近江ノ淺井長政、越前ノ朝倉義景ヲ
頼^ル騎^トナ^リ、信長^ノ武^力ヲ交^ス、後ニ子信忠ト^ス其

二、大軍ヲ率^テ、武田氏ノ中滅^セリ、是ニ於^テ、
近國^ノ悉^ク平^ムギシカバ、羽柴秀吉ヲ遣^ハシ、西

ノ方、毛利氏ヲ攻^ム、信長^モ亦、次^デ軍ヲ出^サセ^リ
、信忠^ノ其^レ進^ムテ京ニ入^リシガ、信長ノ^解
明智光秀ナル者、信長ヲ怨^ムテアリキ、其備無^キ

信長ヲ討テ

信長ヲ討テ

ヲ窺ヒ終ニ叛天信長父子ヲ京師ニ攻メテ之ヲ

弑セリ此歲一千二百四十二年天正十ナリ信長ハ

平重盛信長ノ弟ニシテ官右大臣ニ至レリ

羽柴秀吉時ニ備中ニ在リ信長ノ遺ヲ聞キ

毛利氏ト和シ軍ヲ旋ヘシテ山崎ニ戰テ

之ヲ誅ス乃チ柴田勝家等諸將ヲ謀リ信忠ノ子

秀信ヲ主トシ安土ニ置信忠ノ二弟信雄信孝

ヲシテ之ヲ輔ケシメ各其他ノ土地ヲ分領セリ

既ニシテ信孝勝家ト謀リ信雄秀吉ヲ除カント

シテ兵ヲ起セシメカハ秀吉二人ヲ攻メテ之ヲ滅

シテ之ヲ滅シテ之ヲ輔ケシメ各其他ノ土地ヲ分領セリ

是時德川家康參河連江ニ據リ兵力最日

強ク又嘗テ信長ト親ミ善カリシカハ信雄之ニ

接ヒテ求ム是ニ於テ家康信雄ト共ニ出テ秀

吉ト小牧ニ對陣セシメ秀吉勝タズカテザル

謀リ議シテ和ヲ結ベリ此時長曾我部元親ナル

者四國ヲ略シテ勢頗ル盛ナリ秀吉之ヲ招ケ凡

到ラズ依テ兵ヲ出シ攻メテ四國ヲ平ゲタリ

是時ニ當テ秀吉ハ威權日盛ナリ是日先

大ニ大坂ニ城ヲ築キ居リ

大ニ大坂ニ城ヲ築キ居リ

田徳川家康
元秀老母
母之和服
見之於前
出衆
是時
是時
是時
是時

及於人
廿世
毛

真國身

内大臣

他

天正十又官職ニ累遷シテ終日關白ト爲リ、姓ヲ豊

田ト改メ、尋テ太政大臣ニ任ズ、是ニ豊臣氏

終ニ織田氏ニ代テ、令ヲ京師ニ發セリ、後秀吉其

ヲ越中ニ出シテ、佐々成政ヲ降ヌ時ニ、上杉謙信

既ニ死シ、其姪景勝越後ニ據レリ、秀吉乃チ之ト

盟ヲ結ビ、地陸皆從フ、是ニ於テ、近國悉ク平

カ、九州ニ在テ、薩摩ノ島津義久、兵強クシテ、肥前

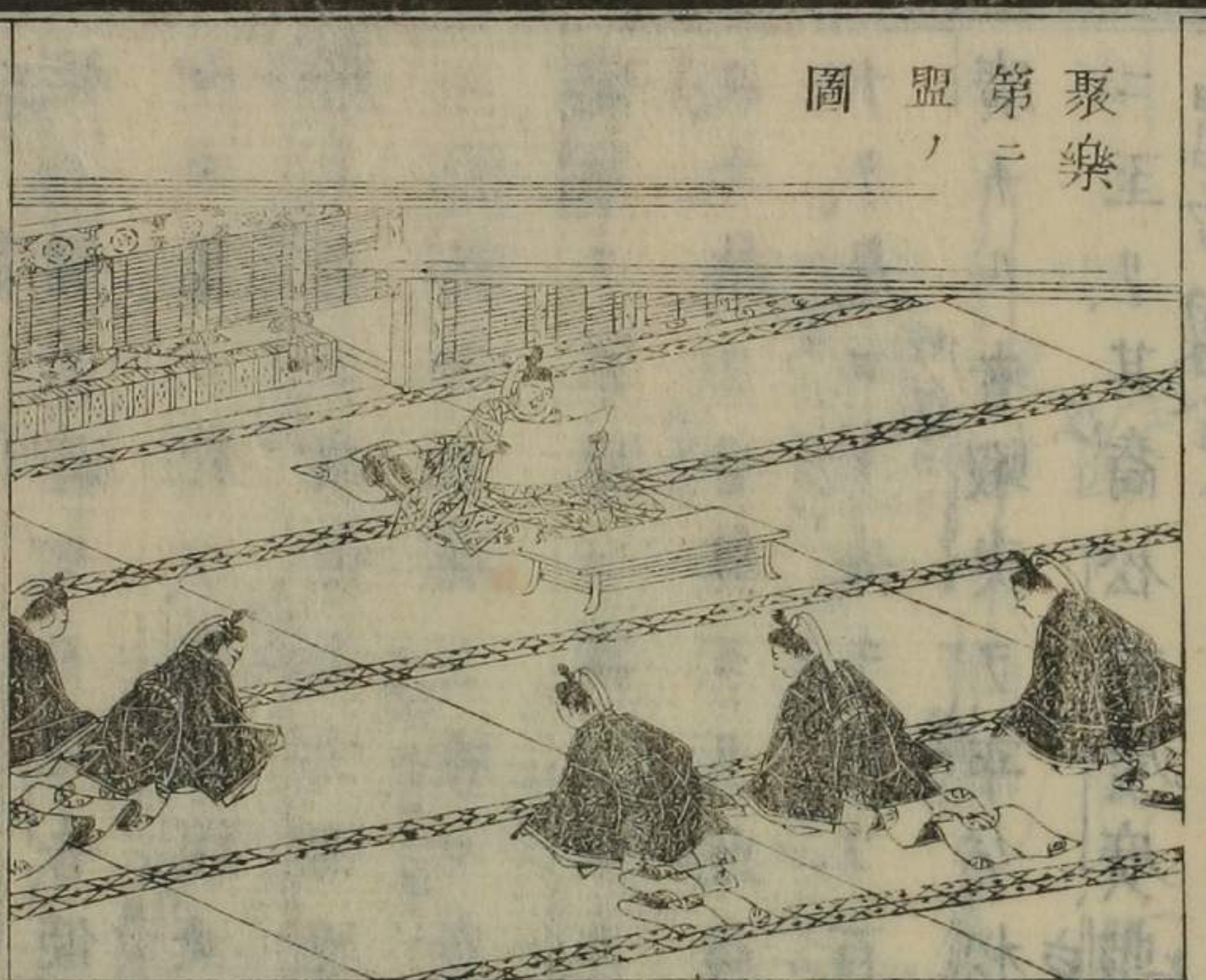
龍造寺隆信、豐後大友宗麟等皆其破ル所ト

爲リ、九州多ク義久ニ歸テ、秀吉義久ヲ招ケ、臣

ビズ、依テ大軍ヲ發シテ、九州ヲ伐チ、義久降リ、九州

全ク平シ

聚樂第二盟圖



平ガ、秀吉又京師ニ聚樂第ヲ築キ、成ル時ニ、正

親町帝崩ル、後陽成帝、

ヲ立テリ、依テ、帝ノ臨幸

ヲ乞ヒ、諸將ト御前ニ盟

ト共ニ、皇室ヲ尊ビ、且、關

白ノ令ニ違ハサラシム

是時ニ當テ、東北ノ諸國

并、林、皆秀吉ニ服セシガ、

獨リ北條氏、好氏政、

關東ニ據リ、伊達政宗、

關東ニ據リ、伊達政宗、

秀吉、使ヲ氏政ヲ遣リ、尚應
 將ト共ニ東征シ、小田原ヲ圍ム、半年ヲ經テ、終
 二北條氏ヲ滅シ、尋テ東北悉ク定マル、秀吉、依テ
 關東ヲ家康ニ與ヘ、江戸城ニ居ラシム、其他諸將
 各土地ヲ分與セリ、此歲二千二百五十年天正十八年
 ナリ、是ヨリ先キ凡ソ百年前嘉吉年間、若狹人武田信
 廣ナル者、蝦夷ヲ平シ、松前ニ據リ、北北カ秀吉ノ世
 二至リ、其裔松前慶廣、蝦夷ヲ舉ゲテ、歸屬セリ、應
 仁以來國內分裂シテ、兵亂止ム時無カリ、是

巧計四羅大
 島人四五
 此等

朝鮮史
 明義備
 本高
 政之
 和冠
 傳之

二至テ、全國悉ク一統スル所ト爲シ、
 秀吉、既ニ國內ヲ定メ、更ニ明國ヲ攻メテ、地ヲ擴
 メ、使ヲ朝鮮ニ遣ヒ、其王李昞李昞、明國使
 ルノ路ヲ假ラシトセシメ、聽カズ、秀吉亦加藤
 清正、小西行長等、諸將ヲシテ、大軍ヲ率テ、朝鮮
 ヲ攻メシメ、大破テ、其國都ヲ陷シ、
 主朱翊鈞、其將李如松ニ、木軍ヲ擄ケシテ、來テ、援
 之ヲ破リ、是ヨリ、講和ヲ議成リシガ、明ノ使到ル
 之、秀吉、其約束ノ齟齬スルヲ怒リ、再ビ軍ヲ

發斗、朝鮮ヲ伐シ、是ヨリ先、秀吉關白ノ職ヲ、嫡裔

ノ讓ル、既ニシテ、男秀頼ヲ生ム、秀次モ亦、狩野

ニシテ、母ヲ、カバ、秀吉終ニ秀次ヲ殺シ、二、千二百五

十八年、慶長、秀吉薨、秀吉ノ尾張ノ人ナリ、其世

ヨリ起リ、終ニ身ヲ、關白ニ致スニ至レリ、

秀吉遺命シテ、朝鮮ノ師ヲ止メ、徳川家康、前田利

家、毛利輝元、浮田秀家、上杉景勝等ヲシテ、秀頼ノ

輔ケテ、政ヲ行ハシム、然レ、是時ニ當テ、家康、

威望、獨隆ナリ、秀吉ノ臣石田三成、等、

カントシ、是、諸將各、相黨スル所アリ、

日ニ深シ、上杉景勝、三成ト謀リ、其國ニ還テ、家康

ヲ圖ラントス、既ニシテ、家康、景勝ノ上京ヲ責メ、

自、軍ヲ率、井ヶ會津ヲ攻ム、是ニ於テ、三成、諸將

議シ、秀頼ノ命ヲ矯メ、林、家康ノ罪ヲ鳴ラシ

テ、之ヲ伐ツ、毛利、浮田、島津等、諸將、

進、大垣城ニ據ル、家康、之ヲ聞テ、軍ヲ旋、

島正則、并伊直政、榊原康政等、先鋒トシ、東、

軍終ニ會シ、テ、大ニ美濃ノ關原ニ戰ハリ、兩軍、

進、大垣城ニ據ル、家康、之ヲ聞テ、軍ヲ旋、

島正則、并伊直政、榊原康政等、先鋒トシ、東、

軍終ニ會シ、テ、大ニ美濃ノ關原ニ戰ハリ、兩軍、

進、大垣城ニ據ル、家康、之ヲ聞テ、軍ヲ旋、

島正則、并伊直政、榊原康政等、先鋒トシ、東、

軍終ニ會シ、テ、大ニ美濃ノ關原ニ戰ハリ、兩軍、

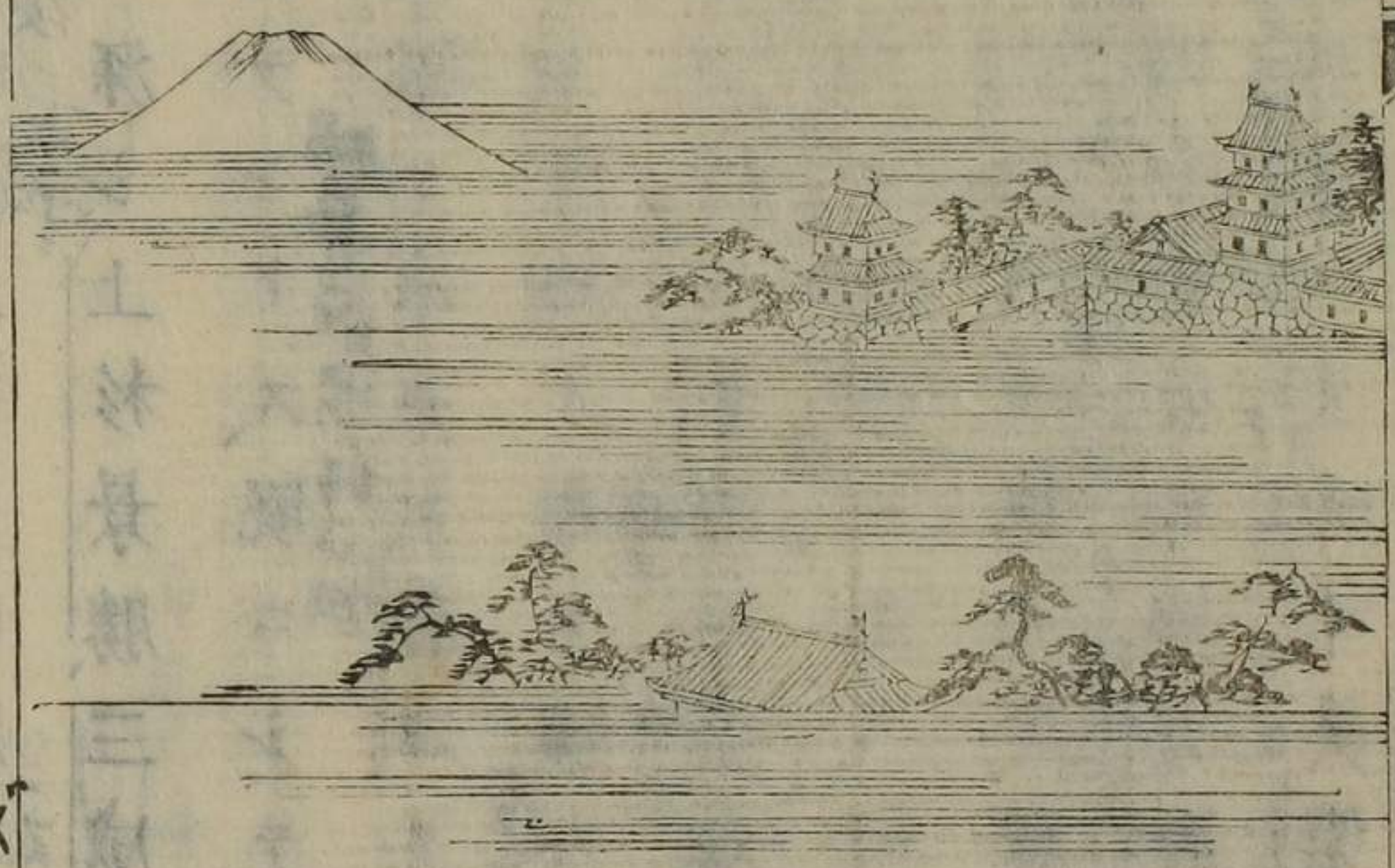
進、大垣城ニ據ル、家康、之ヲ聞テ、軍ヲ旋、

島正則、并伊直政、榊原康政等、先鋒トシ、東、

軍終ニ會シ、テ、大ニ美濃ノ關原ニ戰ハリ、兩軍、

進、大垣城ニ據ル、家康、之ヲ聞テ、軍ヲ旋、

江戶城圖



家康征夷大將軍ニ任以是ヨリ、德川氏、豊臣氏ニ

二勝敗アリシガ、西將小

早川秀秋、東軍ニ、内應セ

ルヲ以テ、西陣終ニ大敗ル

ル、此一戰ヲ以テ、全國

ノ勢、益德川氏ニ歸ス、家

康、毛利氏以下ノ地ヲ削

ル、大ニ有功ノ諸將ニ、領

地ヲ分封ス、此歲二千二

百六十年、慶長、ナリ、秋、

代テ、世々江戶城ニ居テ、國中ノ政ヲ發行ハシ、諸侯皆

江戸ニ朝覲スルニ至リ、後、幾クモ無クシテ、家

康職ヲ辭シ、其子秀忠、將軍ニ任セリ、

初、南海ノ琉球國、足利義教ノ世ニ、我國ニ通ジ、

義教之、島津氏ハ屬セリシガ、二千二百六十

九年、慶長、十三、至リテ、叛キテ貢セズ、島津家久、依テ

任テ之ヲ降セリ、二千二百七十九年、慶長、十、時ニ、

豊臣秀頼、大坂城ニ在リシガ、其將大野治長等、秀

頼ヲ勸メ、兵ヲ舉ゲ、徳川氏ニ抗セシム、家康、秀忠

乃チ國中ノ兵ヲ發シテ、之ヲ攻ム、既ニシテ、和議

龍牙 龍牙
南島 南島
利子 利子
又朝野 又朝野
又朝野 又朝野
又朝野 又朝野

結 結 明年大坂復 兵ヲ 家康父子再
之 之 伐之 天 陷シ イレ 秀頼 自殺 豊臣氏滅
是 是 ヲリ 國中全ク 徳川氏ニ一統ス 家康ハ 源義
家ノ 齋ナリ 英明沈毅ニシテ 既ニ 國內ヲ平ゲ更
ニ 文學ヲ興シ 政制ヲ定メ 爾後凡ソ 三百年間太
平ノ 運ヲ開ク 實ニ 眞功ナリ 二千二百七十六
年 元和 家康薨ズ 東照宮ト 謚ス
秀忠 職ヲ承 謹厚キ 能ク 其職ヲ守ル 時ニ
後水尾帝 後陽成ニ 嗣デ立チ 秀忠ノ 女ヲ納レテ
皇女ヲ生ム 後皇女位ニ 即ク之ヲ 明正帝トス 秀

時ノ 明君ナリ 二千三百十五年 明曆 江戸 大火ア

蝦夷征伐 圖



至 至 二千三百廿九年 寛文
東蝦夷 一シテ 千
シクセンナル者アリテ
亂ヲ成シ 由地ノ 人ヲ殺
將軍 松前泰廣ニ 命
之ヲ 討ク 次ノ 平
是ヨリ 先キ 伊達政宗

如本册 印蔵
小島

萬國史各三

此
支國
之
正之
之
之

石門
山
林
山

石門
山
林
山

宗勝ハ、土佐ニ流サレ、時ニ、二千三百三十一年、
 寛文十一年、大老酒井忠清、伊達宗重、
 二千三百四十年、延寶八年、將軍家綱、
 家綱弟綱重ヲ、甲斐ニ封ジ、綱吉ヲ、
 館林ニ封カ、此

伊達宗重之ヲ將軍ニ訟フ老中板倉重矩之ヲ裁
 斷シ宗輔等歿ニ決セシガ宗輔宗重ヲ殺シテ死
 村ヲ立テ又之ヲ除カントセシガ事現ハレ老臣
 小幡宗重、酒色ニ誘テ之ヲ幽シ其幼子綱
 季子宗勝ナル者家老原田宗輔謀テ宗家ヲ奪
 二子ヲ殺シ伊達宗重ヲ立テ、

大老酒井忠清、伊達宗重、
 延寶八年、將軍家綱、
 家綱弟綱重ヲ、甲斐ニ封ジ、綱吉ヲ、
 館林ニ封カ、此

三
六

時、綱重、既ニ死ス、依テ綱吉ヲ將軍ト爲ル、英斷
 アリ、職ヲ襲テ、始ニ當テ、越後侯松平光長ハ封
 ヲ收メ、其餘貶黜スル者アリ、諸侯皆其威ニ畏ル、
 時、堀田正俊、大老ト爲リ、初メ家綱ノ薨シテ嗣
 キヤ、大老酒井忠清等相議シ、鎌倉ノ故事ニ倣ヒ、
 親王ヲ迎ヘテ、主トセントセシガ、正俊之ヲ爭ヒ、
 終ニ綱吉ヲ立テ、忠清ニ代テ、大老ト爲リ、功ヲ特
 ミ、驕侈ニシテ、私多シ、若年寄稻葉正休之ヲ憤リ、
 正俊ヲ營中ニ殺セリ、是
 後柳澤吉保ナル者中ト爲リテ、權ヲ執レリ、吉

大老酒井忠清、伊達宗重、
 延寶八年、將軍家綱、
 家綱弟綱重ヲ、甲斐ニ封ジ、綱吉ヲ、
 館林ニ封カ、此

萬國史略

三六

保小、初メ、館林ノ小臣ナリシガ、綱吉ニ從テ、幕府
 仕テ、大ニ寵ヲ得テ、終ニ封ヲ益シ、諸侯ニ列シ、
 八萬石ニ至リ、老中ノ首座ト爲テ、威權比ナシ、
 將軍綱吉、學ヲ好ム、初メ、家康、儒士林信勝等ヲ親
 重シ、頻ニ、文學ノ道ヲ奨メシガ、綱吉ニ至リ、聖堂
 及ビ學問所ヲ、神田ニ建テ、信勝ノ子信篤ヲシテ、
 大學頭トシラシム、是ヨリ林氏世々、幕府ノ儒官ト
 リ、同時ニ、文學ノ士、頻ニ起リ、山崎、伊藤、細、楨、荻
 生、雙、松、等、皆一時ノ名儒ナリ、將軍、又、僧隆光ヲ崇
 信シ、之ガ爲メニ、神田ニ護持院ヲ建テ、佛堂ニ其説ヲ



綱吉が犬ヲ養フ圖

長矩

死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

テ、死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

テ、死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

テ、死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

テ、死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

テ、死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

テ、死ヲ賜ヒ、其封ヲ奪ハ、義英罪

納シ、嚴ニ殺生ヲ禁ジ、殊
 ニ、犬ヲ殺スヲ制シ、近郊
 二數百萬頭ノ犬ヲ養フ
 世ニ、大公方ト稱シ、
 二千三百六十一年、元祿
 年、赤穂侯、淺野長矩、高家
 吉良義英、侮慢ヲ憶ル
 テ、勅使ヲ營中ニ饗
 ナルニ當テ、義英ヲ傷ク、

白
姓
軍
仁
第
事

得^レ不^レ長矩ノ臣大石良雄等^{四十七}人相盟才長矩
ノ仇ヲ報ヒント^レ、明年冬終^レ、義英ノ第ヲ襲ヒ、
義英ヲ斬^レリ、其首ヲ長矩ノ墓ニ献^レテ、依^テ幕府ニ
自首セリ、綱吉終^レニ其徒^{良矩}ニ死ヲ賜^レテ、世^ニ其忠志ヲ
賞シテ、北^ノ赤穂ノ義士ト呼^ビリ、
二千三百六十四年、寶永元年、綱吉、甲府綱重ノ子家宣
ヲ立^テテ、世子ト^ス、乃^チ、柳澤吉保ヲ甲斐十五萬
石<sup>ヲ賜^リ、感^シ、時^ニ吉保、寵ヲ重^クシ、屢、將軍ヲ、曰^レ、第
ト宴^シ、其愛接^ク、將軍ニ近^クカシメ、既^ニシテ、男^吉
里ヲ生^ム、是^{ヨリ}、吉保、愈^ク寵^クヒラレ、遂^ニ、甲斐ヲ受</sup>

至^ル、人皆曰^ク、將軍其子ヲ封^ス、
此時、駿河ノ富士山、火ヲ發^シ、並^ニ、國灰ヲ積^ム、
富士山ノ燒ケル圖



餘^ニ、及^テ、山腹ニ、一山ヲ
噴^ク、出^ス、之^ヲ寶永山^ト稱
セリ、
二千三百六十九年、寶永
將軍綱吉薨^ズ、綱吉、益^ク、
保^ヲ、
萬石ヲ以^テ、之^ヲ封^セン

萬國史略

三六

未入鷹司氏將軍ヲ刺シ巳亦自殺セリト是千本
 元家宣代才將軍ト爲リ吉保ヲ黜ク悉ク苛政ヲ
 除キ又學ヲ好シ新井君美等ノ學士ヲ任用ス職
 宗迎ヘラレテ將軍ト爲ル時二千三百七十六
 八歳薨ス是ニ於テ家康ノ子頼宣ハ孫純伊藤吉
 宗迎ヘラレテ將軍ト爲ル時二千三百七十六
 年享保ナリ
 將軍吉宗聰明ニシテ能ク節儉ヲ守リ賢ヲ舉ゲ
 諫ヲ納シ又文武ノ道ヲ勵マシ號シテ徳川氏中
 興ノ主トス吉宗又大岡忠相ナル者ヲ用非テ町

奉行トス公直ニシテ能ク訟ヲ裁決ス二千四百

五年延享吉宗職ヲ子家重ニ讓リ後七年ニシテ

薨ス有徳ト諡ス

將軍家重昏惰ニシテ酒色ニ耽リ政ヲ視ズ然レ

氏告宗薨ズルニ臨ミ館林族松平武元ヲ老中ト

ス武元剛正ニシテ能ク心ヲ盡クシ政ヲ輔ク時

ニ京都ニハ後光明帝ヨリ後西院靈元東山中御

門櫻町桃園ノ六帝ヲ歴シガ桃園帝崩シ太子尚

幼ナリシガハ皇妹後櫻町帝位ヲ嗣ギ次テ太子

ニ讓ル之ヲ後桃園帝トス崩シテ嗣無シ依テ東

山帝ノ曾孫孝格帝、入テ位ヲ嗣ゲリ、

二千四百廿年、寶曆十年將軍職ヲ子家治ニ譲リ、明年

薨（海江院と号す）、田沼意次ナル者アリ、父ハ、紀伊ノ小吏

キシテ、吉宗ニ從ヒ、幕府ニ仕ル意次、家重（侍）ニ寵セ

ラレ、家治ノ世ニ及テ、益、寵恩ヲ得、終ニ、列侯ト爲

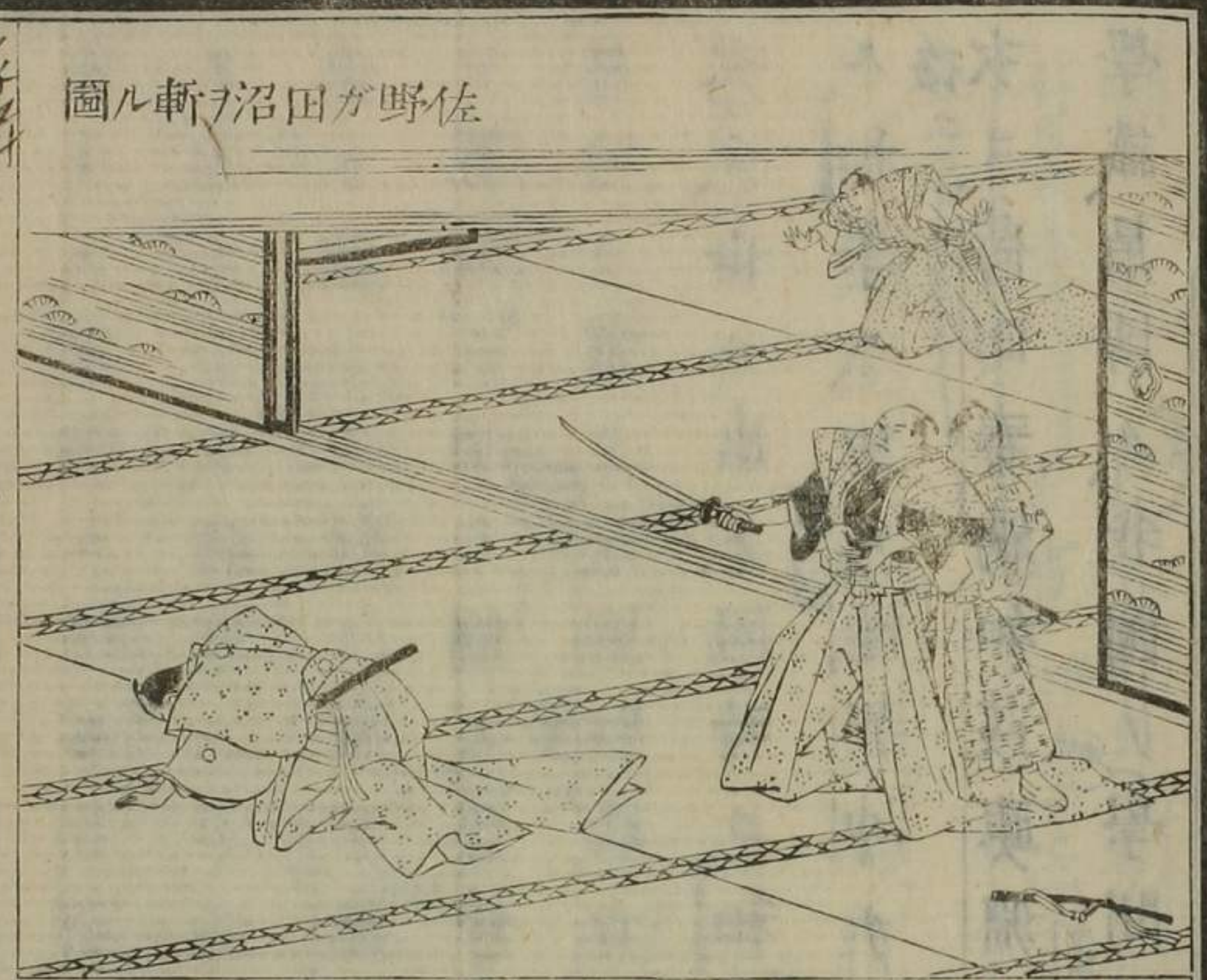
シ、老中ニ任ズ、時ニ、松平武元、既ニ死シ、意次、獨

政權ヲ擅シ、（此年此地甚ク瓦意次ノ時所ナリ世ナリ知マ）世間ノ事

ヲ、聞カシメズ、諸臣ノ黜陟、皆賄賂ヲ以テ成ル、時

ニ、諸國ニ風災水旱多シ、人民饑饉ニ困（コレ天罰歟）、當

意次、租稅ヲ重クシ、政令實ニ煩苛ナリ、意次人



佐野ガ田沼ヲ斬ル圖

職ヲ嗣ギ、意次ヲ黜ク、時ニ國中

予意知主、亦若年寄タリ、佐野政言ナル者、其横專ヲ惡ミ、之ヲ營中ニ殺セリ、
二千四百四十六年、天明六年家治薨ズ、世子家基、賢名アリシガ、（早ク）薨ズ、依テ、吉宗ノ曾孫家齊、（極）十橋ヲ表シ、
ヨリ入テ、世子ト爲リ、尋ニ、（此年此地甚ク瓦意次ノ時所ナリ世ナリ知マ）國中、大ニ饑エ、饑民

真國史略

亂ヲ成ス、此時白河侯松平定信ヲ以テ老中ノ首座トス、定信ハ將軍吉宗ノ曾孫ナリ賢徳アリ意ヲ銳クシテ前代ノ弊政ヲ除キ節儉ヲ專ニシ文武ヲ興シ人材ヲ舉ゲ德川氏ノ政治復々興ル之ヲ寛政ト稱ス定信死後是時ニ當テ柴野邦彦古賀樸尾藤肇等ノ學士相次ギテ世ニ出デ同時ニ和學及ヒ和蘭ノ學大ニ起ル和學ハ初メ僧契沖ナル者古風ノ正學ヲ起シ後ニ荷田春滿加茂真淵アリ本居宣長ニ至リテ其學識最博ク我國ノ學問實ニ宣長ニ大成セリ和

田朝等招前
船中移住
如常ノ朝
大若ト朝
也

蘭ノ學ハ初メ新井君美（西田）青水（文藏）ナリ者之ニ次ギテ未ダ世ニ行ハズ是ニ至テ前野良澤桂川甫周杉田玄白大槻玄澤等大ニ其學ヲ弘ム今時ノ洋學ハ其原由是ヨリ出ヅ同時ニ又高山正定蒲生秀實（果年）ナル者起リテ尊王ノ説ヲ唱ヘ林子平（ル）者出テ大ニ海防ノ説ヲ主張セリ且愛國ノ志ヲ見ル者多ク是レ其原由也先キ魯西亞人屢蝦夷ニ來リ交通シテ其國ノ使節ヲ奉テ更ニ交

唐太、天
擇控才

番

書國史册

通ヲ求ム、幕府許サズ、使節、取テ因テ、歸路ニ自殺利尻探
ス、其徒、其仇ヲ報ヒ、三年ヲ歴テ、唐太、利尻探
捉ニ冠ス、幕府奧羽ノ諸侯、命シテ、蝦夷ヲ守ラ
シム、其明有妻也、數年、蝦夷平、ナラズ、是年、

家康ノ季子、賴房、水戸ニ封セラレ、其子光國、
學ヲ好シ、編セシ、數世ヲ歴テ、是ニ至テ、成ル、大日本史、
名ヅク時、儒士賴襄ナル者、才學アリ、文章ヲ善
クス、亦日本外史ヲ編ス、是ヨリ、國史世ニ行ハレ
隨テ學士中ニ、尊王ノ議ヲ說出ス者多シ、

二千四百九十五年、天保

大塩大坂ヲ燒ク圖



萬國史略

山石侯仙石久利ノ臣、仙
石左京等、殺殺ヲ行ヒ、主
家ヲ奪ハシメテ、誅セ
ラル、後、三年ヲ歴テ、大坂
町奉行ハ與カ、大鹽平八
郎ナル者、才學ニ誇テ、驕
傲ナリ、饑饉ニ乘シテ、亂
ヲ爲シ、大ニ大坂ノ市中
ヲ燒キシガ、城代町奉行
等兵ヲ出シテ、之ヲ伐チ、

聖

徒黨皆平此年

將軍家齊職ヲ子家慶ニ讓リ、後五年ニシテ薨シ

是レ二千五百一年天保十年、家齊職ニ在ルル

五十年將軍ニシテ、太政大臣ヲ兼ヌルニ至ル時此年

太平ヲ極メ、奢侈ヲ窮極不世ニ稱シテ大御所ト

其ノ家慶職ヲ襲ヒ、水野忠邦其ノ中トナル也ヲ用井、遠ニ前代ノ

弊ヲ改メントシ、嚴キ奢靡ヲ禁シ、政令繁多ナリ

シカバ、人心服セズ、忠邦後トシテ貶セラレ、

是時ニ當リテ、西洋諸國ノ船松前、對馬、伊豆、浦賀等

ニ來テ、屢薪水ヲ求メ、交通ヲ乞入、二千五百十三

年嘉永ニ至テ、北亞米利加ノ合衆國使節大佐パール

率井、軍艦數艘ヲ率井、突發、江戸ノ海ニ入り、其

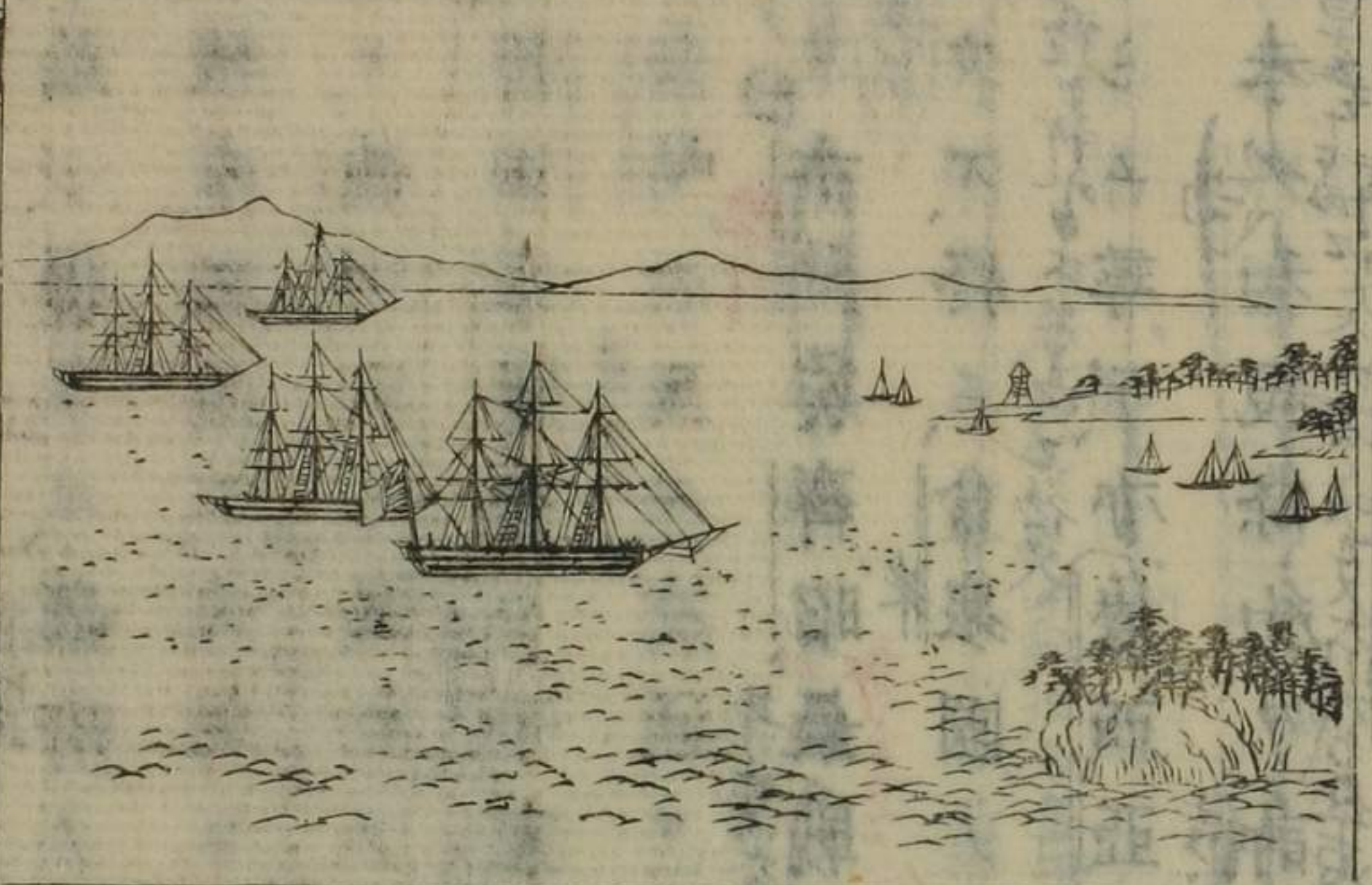
團大統領ノ書ヲ持シ、和親交通ヲ乞ハシム、幕

府諸藩ニ命ジテ、海防ヲ嚴シメ、亦亦旨ヲ以

テ天朝ニ奏シ、又諸侯ニ示シ、編ク交通ヲ得失ヲ

問フ、是ヨリ同キ實踐和親用志士和

亞米利加船江戶海ニ入ル圖



① 是日也
 德朝延明
 正年後德朝
 德院重元
 忠中内櫻
 所桃園後櫻
 所後園老櫻
 仁孝子帝基
 孝明奉信
 孝明奉信
 孝明奉信

戰ヲ論ジ、慢リニ、幕府ノ政ヲ、批議セルニ至リ、而
 シテ、後來、國政ノ天朝ニ歸スルノ機モ、亦實ニ此
 ニ起リ、徳川氏ノ政初メテ衰フ、（威令思至リテ衰フ）
 此歳、將軍家慶薨、子家定嗣グ、同時ニ魯西菲船
 モ、亦長崎ニ至テ、交通ヲ乞フ、是ニ於テ、（世上文帝）衆議益紛
 ヲ、（トレテ）徳川亦戸府齊昭、（寺長）最戰ヲ唱、（乙者果多）カ老中阿部正
 弘、聽カズ、終ニ、魯西國ノ請ヲ許シ、土地ヲ貸シ、來
 泊シ、（レハ）尋テ、亦魯西亞、和蘭、英、吉利、（ニ）許セ、（ト）然
 レ、（レ）未ダ、和親條約ヲ請サズ、（ルナリ、既ニ）シテ、會
 衆國ノ使節ハルリス、（ヲ）テ、（レ）者、國書ヲ奉シ、來、（ト）將

軍ニ面謁セシメ、（ヲ）乞フ、列侯皆之ヲ止メ、シテ、幕
 府、終ニ、將軍ニ謁セシム、（ハルリス、乃チ、和親條約
ノ事ヲ言フ、時ニ、京師ニハ、孝格帝ヨリ、仁孝帝ヲ
歴テ、孝明帝ニ至シ、幕府依テ條約ノ事ヲ以テ、
未朝ニ奏ス、公卿皆之ヲ拒、（外文）老中堀田正篤等、京
 都ニ至リ、頻ニ、勅許ヲ乞ヘ、（ハ）許サズ、（ト）時、
 此時、幕府彦根侯井伊直弼ヲ、（以テ）大老トシ、直弼
 勇斷アリ、時ニ、（ハ）益條約ヲ、（促シ、且）今、英
 吉利、佛蘭西、（ハ）國新、（ト）清國、（ハ）勝チ、亦來、（テ）條約
ヲ迫シ、ト、（ハ）是ニ於テ、直弼、時勢ノ已ム、（ト）力、（ハ）サ、（ハ）

萬國史略

聖

ルヲ察シ、一千五百十八年、安政五年、終ニ、斷然、條約ヲ
 合衆國ニ許シテ、後ニ、（此）之ヲ京師ニ奏シ、尋テ、魯、英、
 佛、蘭、ノ四國ニ許セリ、（是）是ニ於テ、國內ノ開國論ヲ
 主トス、（非）尊王攘夷ノ論ヲ處置ナリトシ、（尊）尊王攘
 夷ノ論、大ニ起ル、時ニ、近年、江戸、地大ニ震ト、又大
 風雨アリ、尋テ、國中暴瀉、病大ニ行ハレ、（此）江戸、最
 甚シク、前後死スル者、數十萬人ナリ、（此）
 時ニ、將軍家定康、（子）嗣無シ、尾張侯徳川慶勝、越
 前侯松平慶永、（子）佐藤内豐信等、皆、（此）中興齊昭
 ノ子、一橋慶喜ヲ立テ、（此）トス、大老直弼、聽カズ、終

ニ、（此）將軍家茂ヲ迎ヘテ、（此）立テ、慶勝等ヲ黜ク、
 家茂、（此）尊攘ヲ唱フル者、（此）京都ニ往キ、
 時ニ、水戸、（此）幕府ハ政ヲ專ラントス、直弼、
 内勅ヲ、齊昭ニ下シ、幕府ハ政ヲ專ラントス、直弼、
 探リ、乃チ公卿諸侯、（此）數人ヲ、（此）激徒數十人
 ヲ捕ヘ、或ハ斬リ、或ハ幽ス、是ニ於テ、國中、皆直弼
 ノ威斷ニ畏ル、（此）幕府、横濱、長崎、箱館、ノ三港ヲ
 閉シ、外國ノ交易ヲ断シ、（此）五國ノ條約ヲ、國中ニ頒
 テリ、
 一千五百廿二年、（此）萬延元年、水戸ノ激徒、（此）尊攘ヲ唱フル
 者、數人、幕府ノ政治ヲ不滿ナリ、（此）江戸、外櫻田

長宗 毛利 諸藩 浪士 尊王 攘夷 論 益盛 後 浪士 等 相 集

井伊直弼、是ヨリ、後、幕府ノ威令、
 過激ノ浪士、開國ヲ主張スル者ヲ殺
 害シ、尊王攘夷ノ論、益盛キシテ、後、浪士等、相集
 常陸、大和ニ屯據スル者、朝廷、
 命シテ外交ヲ絶タシメ、遂ニ將軍、
 諸侯ヲ京師ニ召シテ、攘夷ヲ迫ルニ到ル、
 事、成ラザルヲ計テ、外交ヲ絶タズ、此時ニ當テ、
 浪士、屢在留ノ外國人ヲ殺害ス、
 攘夷ヲ主張スル者、殊ニ長州、薩州土州ヲ甚
 不、尋テ長州下關、薩州鹿島ニ於テ、其藩士等、英、佛、

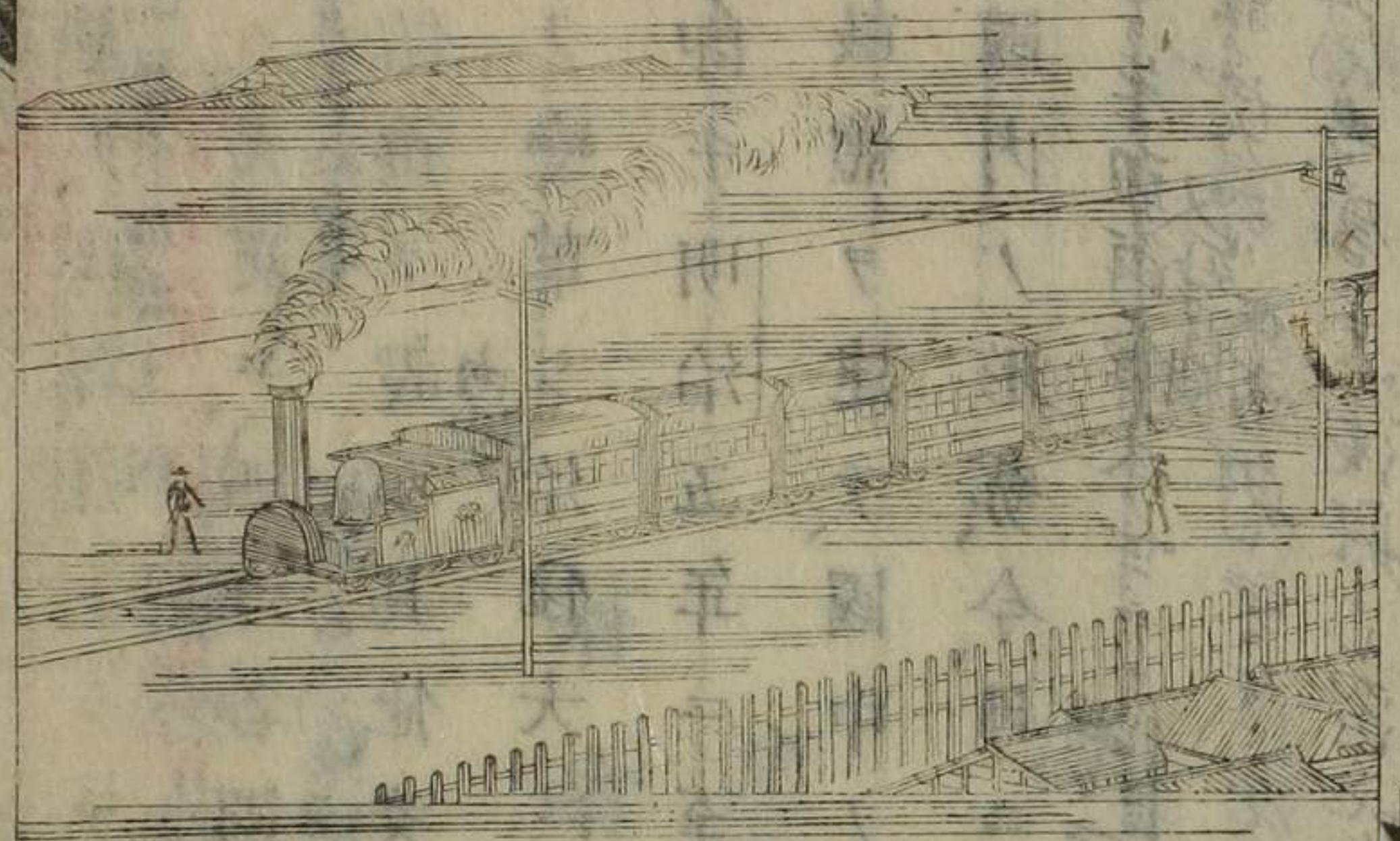
軍艦ト戦フ谷國ノ公使皆怒テ、幕府ニ迫ル、
 償金ヲ求メ、幕府益困メリ、
 二千五百廿四年、元治、長藩ノ激士、終ニ亂ヲ京都
 起シ、皇威ニ迫ル、
 二作、守護ノ兵ヲ擧ゲ、是ニ於テ、幕府
 諸藩ニ、長藩ヲ征討シ、將軍家茂モ亦、
 大坂ニ在リ、既ニシテ、家茂、大坂ニ薨ジ、一
 橋慶喜、職ヲ嗣グ、尋テ、天皇亦崩ジ、今上、天皇位ニ
 即ク、
 二千五百廿七年、慶應、三年、將軍慶喜時勢ノ申、
 トザルヲ察シ、終ニ將軍職ヲ辭シ、政權ヲ朝廷ニ

三十三

徳川氏不承
其子シテ
カニシテ
ニシテ

還^レテ^ハ是^レニ於^テ朝廷公卿諸侯及薩長土等諸藩士ヲ舉^ル大ニ舊來^ノ政體ヲ革改ス然^レ明^ニ其明年慶喜大坂^ニ在^テ將^シ入^ラシテ^ハ薩長ノ兵也^ヲ抑^メ終^ニ戰端ヲ開キ慶喜^ノ戰敗^レテ江戸ニ歸^リ以^テ幕府^ノ朝廷軍ヲ出^シテ關東ヲ伐^シ慶喜罪ヲ謝^シテ屏居^セ奧羽ノ諸藩兵ヲ舉^ルテ京軍ニ抗^ス既^ニ奧羽皆平ギ^テ德川氏ノ臣脱^シテ箱館ニ據^ル者アリ其明年官軍又伐^テ之ヲ平^ゲ以^テ是^レ於^テ二千五百廿九年^{明治二年}國內悉^ク平^定源

東京新橋鐵道圖



賴朝以來國中ノ政權將^テ軍ニ歸^セル^カ百年^ノ用

一統スル所^ト爲^リ其^レ都^ヲ江戸ニ遷^シ名^ヲ東京^ト改^メ太政官及^テ諸官^ヲ國中^ノ諸侯^ノ皆^テ領地ヲ朝廷ニ獻^ス全國悉^ク郡縣ノ制^ト爲^リ東京^{京都}大坂^ヲ三府^トシ其他^ヲ六十縣^ニ分

萬國史略

千、蝦夷、北海道、開拓使ヲ置キ以テ、全國

ヲ治ス、我、更ニ、西洋各國ノ制度ニ倣ヒ、鐵道ヲ開

キ、電信機ヲ設ケ、其他文武百般ノ制度悉ク舊來

ノ弊ヲ變革シ、治、大ニ開ク、今茲、二千五百三十

五年、即チ明治五年ニ至リ、天皇、親シク詔シテ、立

憲ノ政體ヲ建テ、國中ノ諸民ト、休戚ヲ同ウセン

ト、國內ノ形勢、今日ニ、文明開化ニ趣カントセ

ル、昔、先朝、新、世、（此處有手寫註釋）

光、（此處有手寫註釋）

拓、（此處有手寫註釋）

萬國史略、（此處有手寫註釋）

玩味、
朝野、
此、
華中

版權
免許
明治八年十月十五日

東京本郷金助町五十三番地

著者 大槻文彦

東京馬喰町貳丁目一番地

出版人 石川治兵衛

